

第6章 大阪市生物多様性戦略の推進に向けて

「生物多様性の恵みを感じるまち」を実現していくためには、市民、民間事業者、環境NGO/NPO、研究機関・研究者、行政等が生物多様性を意識したうえで、様々な取組みを推進していくことが重要です。

大阪市内では、これまでも、各主体が生物多様性に関連する独自の取組みを進めているとともに、それぞれが知恵を出し合いながら、各主体間で緩やかなつながりを形成してきました。今後、大阪市生物多様性戦略の策定を契機として、生物多様性に関連する様々な主体が集い、情報共有を行い、つながりを拡大・強化していくため、花博記念公園鶴見緑地にある環境活動推進施設(愛称「なにわECOスクエア」)や既存のネットワークの仕組みも活用しながら、新たな連携・協働の仕組みを創設し、市民をはじめ様々な主体と連携、協働するとともに、より多くの人々に生物多様性を身近に感じてもらえるよう、各主体が行う取組みの情報発信を積極的に行っていきます。

さらに、教育の場を積極的に活用し、将来を担う子どもたちへの普及啓発の強化に取り組み、庁内においては、「大阪市地球温暖化対策推進本部」の「区域施策編推進プロジェクトチーム」及び「事務事業編推進プロジェクトチーム」、並びにその下に設置した「生物多様性保全推進ワーキンググループ」を活用し、各部局が連携しながら大阪市生物多様性戦略を推進していきます。

大阪市生物多様性戦略の推進に向けては、PDCAサイクルの手法を重視し、目標の達成状況や取組みの状況について新たな連携・協働の仕組みを活用しながら毎年度点検を行います。点検結果については、毎年度、大阪市環境審議会に報告を行うとともにホームページで公表します。

また、生物多様性のモニタリング・評価及び本戦略の進捗管理の手法や、各主体との連携・協働の仕組みのバージョンアップなどについて検討を行い、次期戦略に反映していきます。

なにわ ECO スクエアを拠点とした新たな連携・協働の仕組み 概念図

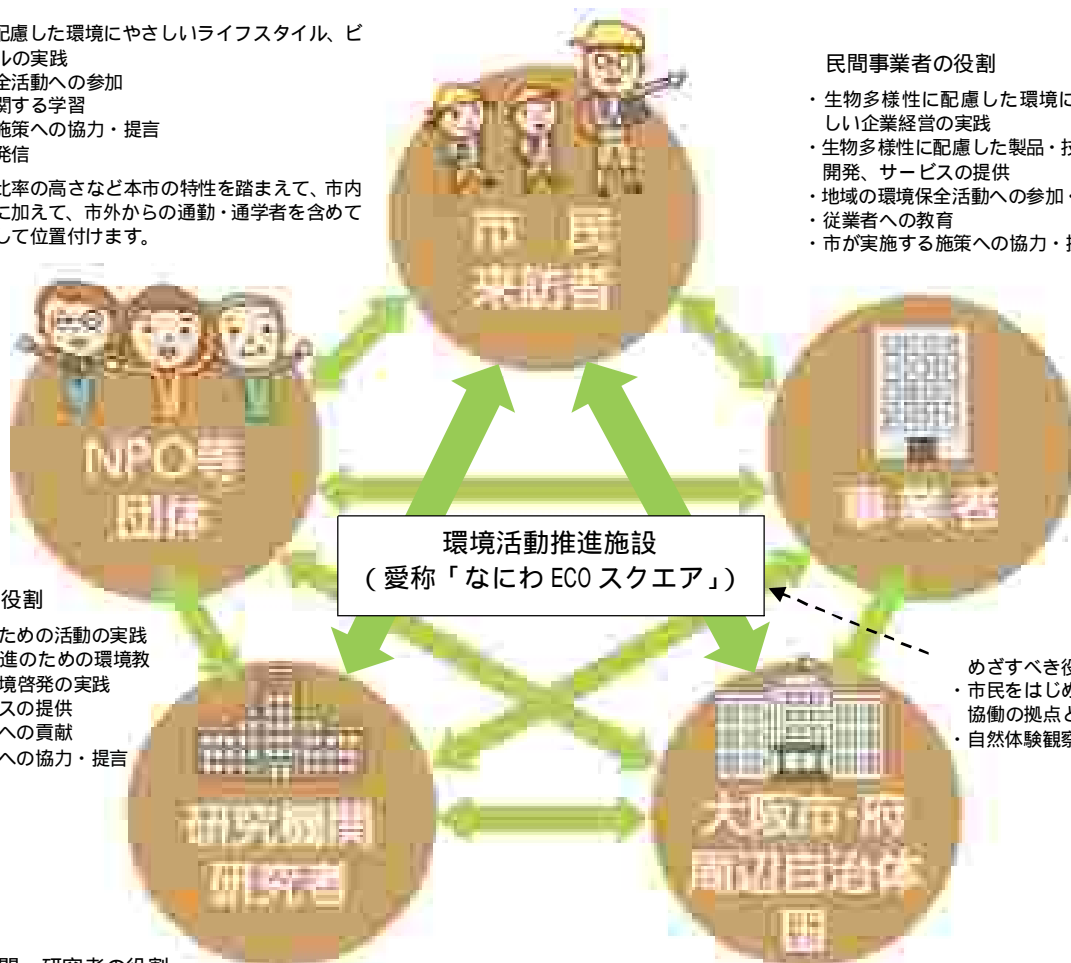
大阪で暮らす人・働く人・学ぶ人、大阪を訪れる人の役割

- ・生物多様性に配慮した環境にやさしいライフスタイル、ビジネススタイルの実践
- ・地域の環境保全活動への参加
- ・生物多様性に関する学習
- ・市が実施する施策への協力・提言
- ・大阪市の魅力発信

昼夜間人口比率の高さなど本市の特性を踏まえて、市内に暮らす人に加えて、市外からの通勤・通学者を含めて「市民」として位置付けます。

民間事業者の役割

- ・生物多様性に配慮した環境にやさしい企業経営の実践
- ・生物多様性に配慮した製品・技術の開発、サービスの提供
- ・地域の環境保全活動への参加・協力
- ・従業員への教育
- ・市が実施する施策への協力・提言



環境 NGO/NPO の役割

- ・地域の環境保全のための活動の実践
- ・市民等への行動促進のための環境教育・環境学習や環境啓発の実践
- ・多様な社会サービスの提供
- ・地域社会の活性化への貢献
- ・市が実施する施策への協力・提言

研究機関・研究者の役割

- ・未解明現象の解明
- ・生物多様性や生態系サービスが有する価値の評価
- ・研究成果の社会への還元
- ・科学的知見からの政策等への提言
- ・生物多様性に関する研究開発や技術協力等への貢献
- ・次代を担う研究者や技術者の養成

めざすべき役割

- ・市民をはじめ様々な主体との連携、協働の拠点として活用
- ・自然体験観察園での体験学習

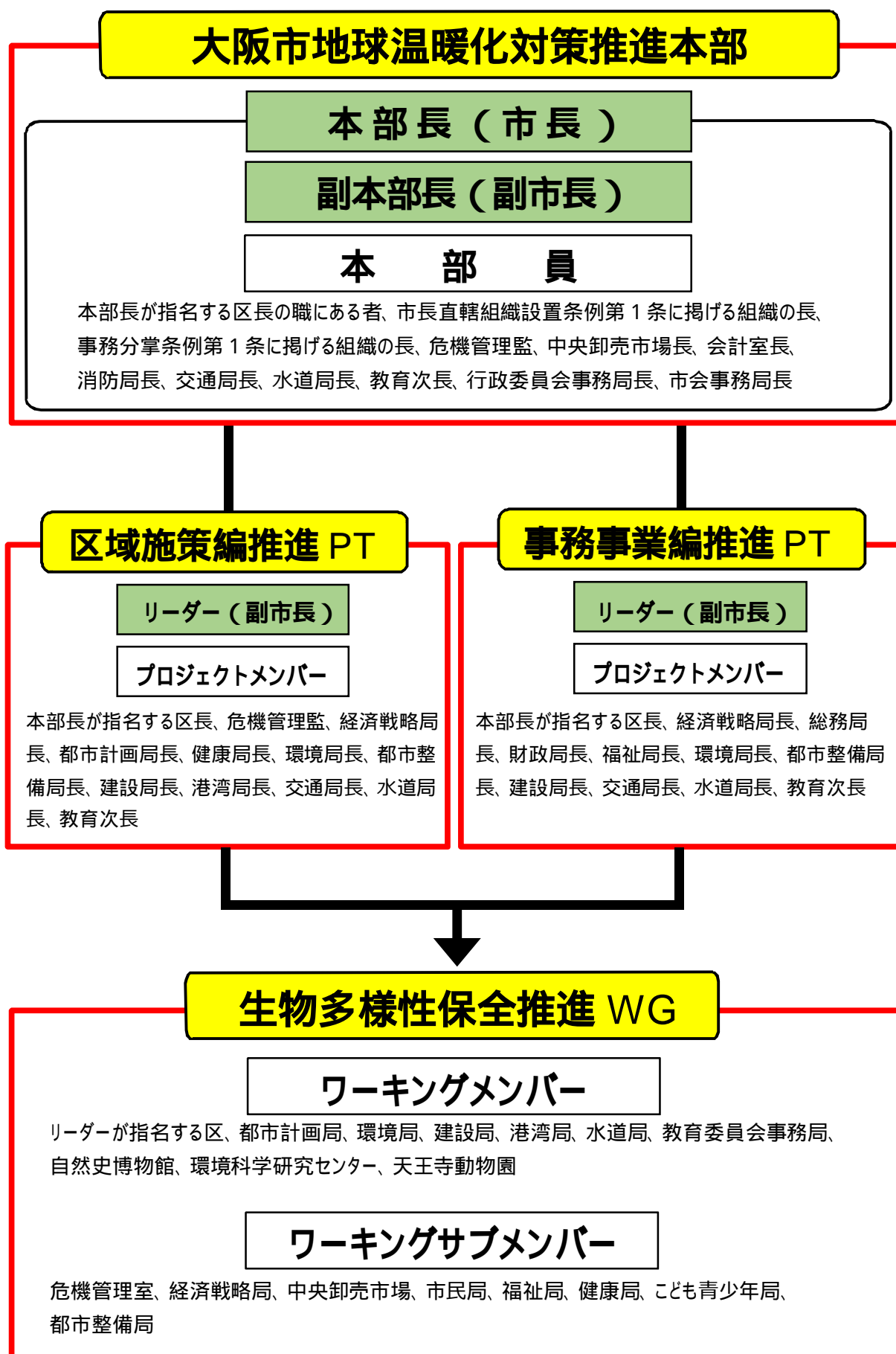
行政・教育機関の役割

- ・市民・事業者等に率先した取組みの実践
- ・市民・事業者等の取組みへの支援
- ・学校園における環境教育
- ・環境に関するわかりやすい情報の発信
- ・市民等が環境について学習できる場・機会の提供
- ・各主体の行動促進のための協力・連携
- ・環境保全施策の総合的な展開

多様な
パートナーシップ
により実現

大阪で暮らす人・働く人・学ぶ人、大阪を訪れる人が生物多様性の恵みを感じるまちを実現

- ・私たちの生活に不可欠な食べ物や衣類、水など、自然や生き物の恵みを継続して得ることができます。
- ・事業に不可欠な資源や環境を持続的に確保し、事業活動を安定的に継続することができます。
- ・自然や生き物にふれあうことで心の豊かさを得ることができます。
- ・洪水の防止や気候の緩和、CO₂の吸収など、自然のおかげで環境のバランスが保たれます。



資料編

1. 策定経過
 - (1) 大阪市生物多様性戦略の策定経過
 - (2) 大阪市環境審議会の委員名簿
 - (3) 大阪市環境審議会生物多様性部会 委員名簿
2. 大阪市生物多様性戦略の策定に向けたシンポジウム
3. 各種イベントへの出展状況
 - (1) 天王寺動物園で講演「生物多様性と絶滅危惧動物を学ぶ」
 - (2) E C O 縁日 2017
 - (3) 環境ふれあい広場 in 東住吉
 - (4) 気候変動講演会 2017
 - (5) エネマネハウス 2017
4. 大阪市内の生物相
 - (1) 大阪市内における保護上注目すべき生き物
 - (2) 特定外来生物
5. 大阪市内の生物多様性関連施設等 一覧
6. 用語集

1. 策定経過

(1) 大阪市生物多様性戦略の策定経過

年 月 日	項 目	審 議 内 容
2016年12月16日	第33回大阪市環境審議会	・大阪市における生物多様性地域戦略のあり方について(諮問)
2017年6月15日	大阪市地球温暖化対策推進本部 第1回生物多様性保全推進WG会議	・戦略策定のスケジュールについて ・戦略の概要について ・「(仮称)生物多様性大阪戦略(たたき台)」について
2017年6月23日	大阪市環境審議会 第1回生物多様性部会	・戦略策定のスケジュールについて ・戦略の概要について ・「(仮称)生物多様性大阪戦略(たたき台)」について
2017年9月8日	大阪市地球温暖化対策推進本部 第2回生物多様性保全推進WG会議	・「(仮称)大阪市生物多様性戦略(中間報告案)」について
2017年9月29日	大阪市環境審議会 第2回生物多様性部会	・環境審議会への中間報告の内容について ・「(仮称)大阪市生物多様性戦略(中間報告案)」について ・今後のスケジュールについて
2017年10月23日	第34回大阪市環境審議会	・「(仮称)大阪市生物多様性戦略」策定に関する審議状況について(中間報告)
2017年12月21日	大阪市環境審議会 第3回生物多様性部会	
2017年1月22日 (開催予定)	第35回大阪市環境審議会	

(2) 大阪市環境審議会 委員名簿 (2016 年 12 月 16 日 ~)

(敬称略 50 音順)

[赤木 克己	日本労働組合総連合会大阪府連合会	(2017年10月31日まで)
	山本 浩司	日本労働組合総連合会大阪府連合会	(2017年12月13日から)
[有本 純子	大阪市会環境対策特別委員長	(2017年8月23日まで)
	西崎 照明	大阪市会環境対策特別委員長	(2017年8月24日から)
[飯田 哲也	公 募 委 員	(2017年10月31日まで)
	岡 秀郎	公 募 委 員	(2017年11月1日から)
	市川 陽一	龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科教授	
[宇田 吉明	大 阪 環 境 ネット	(2017年10月31日まで)
	水藻 英子	大 阪 環 境 ネット	(2017年11月1日から)
	上南木 昭春	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授	
	神田 佑亮	呉工業高等専門学校環境都市工学科教授	
[島田 まり	大阪市会民生保健委員長	(2017年8月23日まで)
	山本 長助	大阪市会民生保健委員長	(2017年8月24日から)
	下田 吉之	大阪大学大学院工学研究科教授	
	高村 ゆかり	名古屋大学大学院環境学研究科教授	
[武田 智津枝	公 募 委 員	(2017年10月31日まで)
	松田 清司	公 募 委 員	(2017年11月1日から)
	中野 加都子	甲南女子大学人間科学部生活環境学科教授	
	中野 隆夫	公益社団法人大阪市工業会連合会	
[中野 亮一	大 阪 商 工 会 議 所	(2017年10月15日まで)
	楠本 浩司	大 阪 商 工 会 議 所	(2017年10月16日から)
	西岡 真稔	大阪市立大学大学院工学研究科教授	
	花田 真理子	大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授	
	藤田 香	近畿大学総合社会学部教授	
[槇村 久子	関西大学社会安全学部客員教授	(2017年10月31日まで会長)
	深町 加津枝	京都大学大学院地球環境学堂准教授	(2017年11月1日から)
	矢野 隆子	一般社団法人大阪府医師会	
	和田 重太	大 阪 弁 護 士 会	

(3) 大阪市環境審議会生物多様性部会 委員名簿

(2016年3月31日 ~)

(敬称略 50音順 部会長)

上南木 昭春	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授
佐々木 正顕	積水ハウス株式会社環境推進部部長
花田 真理子	大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授
平井 規央	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科准教授
深町 加津枝	京都大学大学院地球環境学堂准教授
宮川 五十雄	生物多様性かんさい代表世話人 / 特定非営利活動法人森の都研究所 代表理事

2. 大阪市生物多様性戦略の策定に向けたシンポジウム

市民の意見を取り入れた戦略を策定するため、大阪自然史フェスティバル2017においてシンポジウムを開催し、大阪市環境審議会生物多様性部会部会長による基調講演、大阪市環境局による本戦略策定における中間報告を行い、その後パネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、パネリストと会場参加者との間で意見交換を行うとともに、パネルディスカッション終了後も、引き続き大阪市環境局と会場参加者との間で意見交換を行いました。

【日時】2017年11月19日(日)10時~11時45分

【場所】大阪市立自然史博物館本館講堂

【テーマ】「Do you know 生物多様性？」~大阪市生物多様性戦略の策定に向けて~

【参加者数】130名程度

【主催等】主催：大阪市環境局

協力：大阪市立自然史博物館、認定NPO法人大阪自然史センター

<プログラム>

10時00分 開催あいさつ 堀井 久司(大阪市環境局環境施策部長)

10時05分 基調講演「なにわの賑わい、生命のにぎわい」

~つながりでめざす生物多様性~

花田 真理子(大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授)

10時30分 大阪市生物多様性戦略〔中間報告〕について

岡本 充史(大阪市環境局環境施策部環境施策課長)

10時45分 パネルディスカッション(会場参加者との意見交換含む)

コーディネーター

佐久間 大輔(大阪市自然史博物館 学芸課長代理)

パネリスト

花田 真理子(大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授)

清野 未恵子(神戸大学大学院人間発達環境学研究科特命助教)

佐々木 正顕(積水ハウス㈱ 環境推進部部長)

梅原 徹(認定NPO法人大阪自然史センター理事長)

堀井 久司(大阪市環境局環境施策部長)

11時45分 閉会・アンケート

(閉会后~12時30分 引き続き大阪市環境局と会場参加者との意見交換)



<パネルディスカッション概要>

【パネリスト】

- ・ 自然体験を通じ、身近な都市の魅力としての気付きを促す取組みと、環境教育・啓発が大阪市として一番やるべきことであり、やってほしいと思う。
- ・ 大阪は市民や NGO などのつながりが非常に強く、これは大阪の強みである。戦略の策定にはパートナーシップが重要であり、パートナーシップをつくって取組みを進めるためには、コミュニケーションが重要である。相手にどうすればわかりやすく伝えられるかを参加者の皆さんも一緒に考えてほしい。
- ・ 大阪市内で完結するのではなく、都会の大阪と周辺地域の農村をつなげて生物多様性を考えてほしい。
- ・ 市民が普段の生活の中で、生物多様性に関するものを目にすることができるようになるといいと思った。
- ・ 行政は教育現場である学校などを通じて、次の世代の人たちに生物多様性の重要性を伝えていかなければならないし、地域の方にも感じてもらわないといけないと思う。
- ・ 生物多様性の取組みは、誰かが一つの方向性を決めるものではないと思っていて、市民や民間事業者などさまざまな主体が触発しあって取組みを進めていくことが大事だと考えている。行政の主体間においても対抗意識を持って取り組むことや、協力して取り組むことになるかもしれないと思う。

【会場参加者】

- ・ 自然を守りたいがどうすればいいかわからず、行政の助けが必要だと思う。また、ボランティアは高齢化により少なくなっており、若い世代はなかなか参加しない。
- ・ 広報の仕方に問題があると思う。ボランティアで生き物調査に取り組んでいるが、参加者が集まらない。なにわエコスタイルというホームページに募集案内を掲載しているが、そういう言葉を知っている人が検索するとは思えない。

- ・水道記念館や野鳥園臨港緑地がこの戦略に掲げられていないことは、生物多様性の戦略の観点からすると劣化していると思う。元に戻すようにしてほしい。
- ・他都市の戦略を見ると、外来種の侵入を防ごうというようなことが書かれているのが一般的だが、大阪市の戦略にはほとんど書かれていなかったもので、そのようなことにも取り組んでほしい。

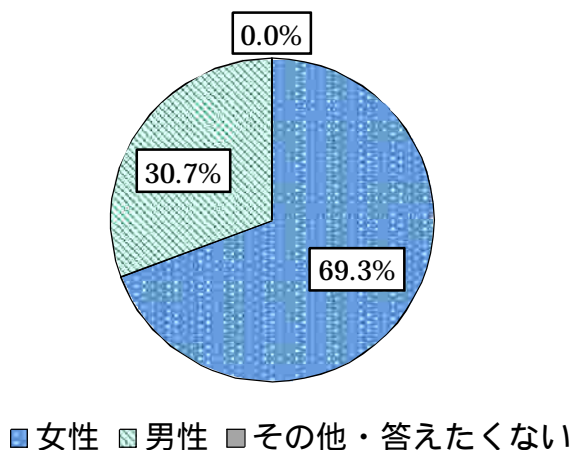
< パネルディスカッション終了後の意見交換概要 >

【会場参加者】

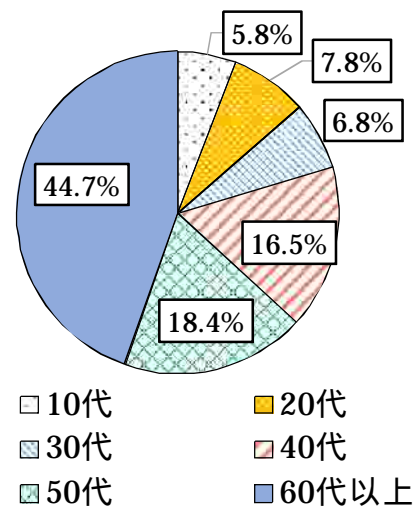
- ・大阪市生物多様性戦略については、市役所の各部局が意識を持たなければいけないと思うので、意識付ける文言を入れるべきである。
- ・教員に対しては法定研修が多く、生き物や環境に関する研修がない。環境局が教育に働きかけて仕組みをつくるほうが良いと思う。
- ・大阪市生物多様性戦略の表紙にある写真について、オオクチバスは外来種であるため、他の写真に変えるほうが良い。
- ・他都市の事例であるが、小さな開発では条例等で規制できないため、お願いにとどまっている。行政指導や規制に関する内容を大阪市生物多様性戦略の中に記載するべきである。
- ・小学校には学習園という畑があるが、都心部では狭く、校内の樹木もわずかである。改修する際には、学習園の拡大や校内の樹木を増やすこと等について教育委員会に働きかけてほしい。
- ・上町台地は大阪市にとって貴重な緑であるため、保全や拡大について大阪市生物多様性戦略に位置付けるべきである。

< アンケート結果（回答総数：103件） >

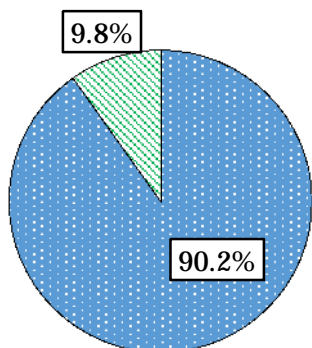
問1．性別



問2．年齢層

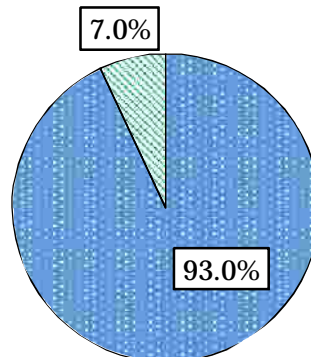


問3 . 生物多様性という言葉の意味を知っていますか？



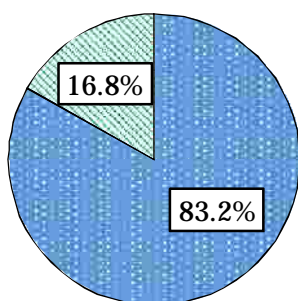
■ はい ■ いいえ

問4 . 生活の中で生き物のめぐみを感じますか？



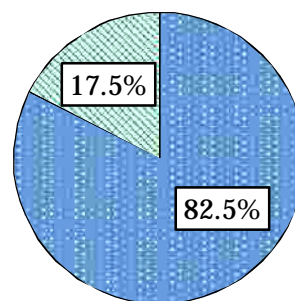
■ はい ■ いいえ

問5 . 最近(概ね1か月)、生き物とふれあいましたか？



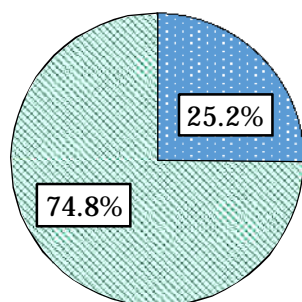
■ はい ■ いいえ

問6 . なんばパークスなどビルの屋上で緑化していることを知っていますか？



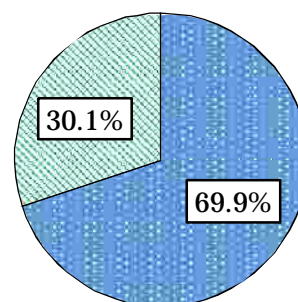
■ はい ■ いいえ

問7 . 緑化している屋上で、大阪では絶滅の危機にある鳥に出会えることを知っていますか？



■ はい ■ いいえ

問8 . タコ焼きのタコの大半は輸入であることを知っていますか？



■ はい ■ いいえ

問9 . その他意見 (概要)

- ・生物多様性には人と人とのコミュニケーションが大切だとわかった。
- ・都市公園はつくられた自然だが、管理の仕方でも多様な自然環境や生物多様性を保てると思う。

- ・生物多様性を多くの人に知ってもらうことが大切だと思う。自分自身ブログを作っており、生物多様性に対する興味を持ってもらうことからスタートしたい。SNSの活用は有効だと思う。
- ・SNSにおいて検索しやすい単語を入れる他、最近の若者はかわいいものが好きなので、生き物のかわいさと共に、生き物が生息する自然が破壊されていることをわかりやすく伝えられる絵本等を作成したら良いのではないかと思う。
- ・若い人に伝える必要があるという割に、講演会自体がつまらない。講演内容や話は面白いのにもったいない。パネルディスカッションでは、有識者だけで若者は参加しづらかった。
- ・生物多様性について全てを知っている人は少ない。特にこのようなシンポジウムで何を伝えるか、何をすべきかをしっかり広めるべきだと感じた。
- ・生物多様性が高い自然環境を体験できる場所が都市近郊にほとんど存在しなくなったと感じている。都市近郊では特定の外来種が繁茂し、そこに生息する動物も限られたものしか見られないため、生物多様性の高さを体験できる自然環境の創生・再生のモデル地区が必要だと思う。
- ・日本人は動物の生息域を人間の生活区域へと変えていき、それによりそこに生息していた動物を害獣や害鳥といった駆除している。外国では共生を考えているため、日本でも上手く共生する方法を考えてほしい。
- ・シンポジウムの題目が「大阪市生物多様性戦略の策定に向けて」だけでは一般の人には何を発表するのかわからず、行ってみようと思わないのではないかと思う。興味を持ってもらえる題目を考えるべきだと思う。
- ・このような講演をもっと時間に余裕を持って、多く開催してほしい。
- ・生物多様性地域戦略の策定を府内の市町村に制定するように働きかけてほしい。
- ・大阪市生物多様性戦略において野鳥園臨港緑地や淀川の淡水魚の施設についても考えてほしい。
- ・「みんなが自然を楽しみながら生活できる世の中づくり」に取り組んでほしい。
- ・生物多様性こそ府市連携あるいは関西広域で考えるべきではないか。
- ・大阪らしい要素がたくさんあり、良い戦略だと感じた。完成を楽しみにしている。
- ・多様な意見が反映された、全国に誇ることができる持続的かつ実行可能な「大阪市生物多様性戦略」が策定されることを楽しみにしている。
- ・短絡的な「恵み」だけでなく、「つながり」の重要性を含めて、外来種対策への理解も生物多様性保全と関係することを明確に説明できるよう施策に活かしてほしい。
- ・行政はもっとしっかりすべきだ。縦割組織が改革されておらず、市としてもっとコミュニケーションをとってほしい。
- ・大阪市は生物多様性に関する活動に対してもっと予算をつけるべきではないか。また、教育委員会との関係で、子どもたちの教育で広げていくことができるのではないか。
- ・大阪市として環境局だけではなく全庁的に取り組んでほしい。

3 . 各種イベントへの出展状況

本戦略を策定するにあたり、生物多様性及び本戦略策定における中間報告内容に関する普及啓発や、市民意識の把握等を目的として、環境関連の各種イベントにおいてブース出展やアンケートを実施しました。

(1) 天王寺動物園で講演「生物多様性と絶滅危惧動物を学ぶ」

天王寺動物園、一般社団法人大阪市天王寺動物園協会、WWF ジャパン（公益財団法人世界自然保護基金ジャパン）の共催で、第一部に大阪府環境農林水産部及び大阪府環境農林水産総合研究所「大阪府の生物多様性のお話」、WWF ジャパンより「森の生物多様性のお話」について講演があり、第二部にパネリストを招き、森のフォーラム「熱帯林と私たち日本人の暮らし」が実施されました。

【日時】2017年10月29日（日）10時～14時

【場所】天王寺動物園

【参加者数】30名程度 台風の影響により来園者が少数

【実施内容】

- ・講演において大阪市生物多様性戦略〔中間報告〕の骨子を配布し、紹介
- ・大阪市生物多様性戦略〔中間報告〕パネル展示
- ・生物多様性に関するアンケートの実施
- ・自然体験観察園で収穫した天王寺蕪の展示



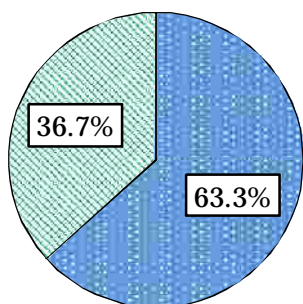
パネル・天王寺蕪の展示



アンケートの様子

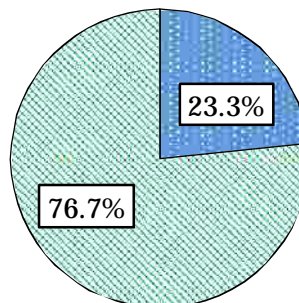
<アンケート結果（回答総数：30件）>

性別



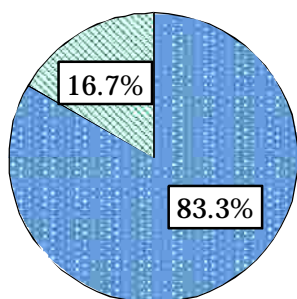
■女性 ■男性

問1. 生物多様性という言葉の意味を知っていますか？



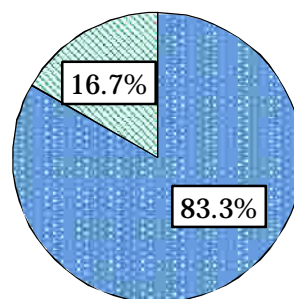
■はい ■いいえ

問2. 生活の中で生き物のめぐみを感じますか？



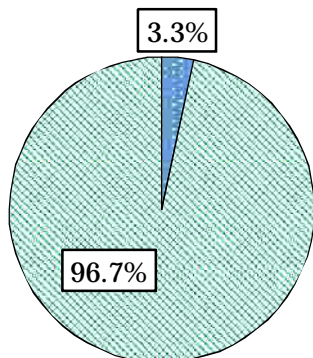
■はい ■いいえ

問3. 最近(概ね1か月)、生き物とふれあいましたか？



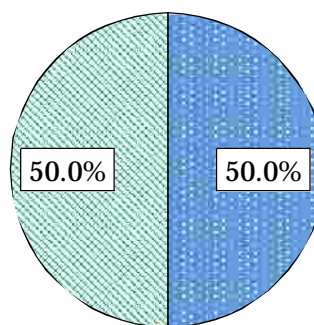
■はい ■いいえ

問4. なんばパークスなどビルの屋上で、大阪では絶滅の危機にある鳥に出会えることを知っていますか？



■はい ■いいえ

問5. タコ焼きのタコの大半は輸入であることを知っていますか？



■はい ■いいえ

(2) ECO 縁日 2017

ECO 縁日は、花博記念公園鶴見緑地内において、昔ながらの ” 縁日 ” を再現し、来場者が出展者の日頃実践している環境活動に関する発表や体験を通じて、人と自然、生活と環境の関わりについて学ぶイベントです。20 回目の開催となる今回は、60 団体以上がブース出展し、リサイクル工作や実験教室、地産地消の考え方に基づいたマルシェなど、参加者に様々な角度から環境問題を楽しみながら学んでいただきました。

【日時】2017 年 11 月 4 日 (土) 11 時 ~ 16 時

【場所】環境活動推進施設 (愛称 「 なにわ ECO スクエア 」) (花博記念公園鶴見緑地内)

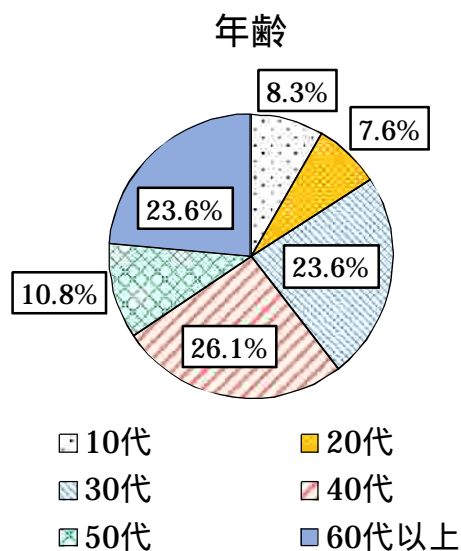
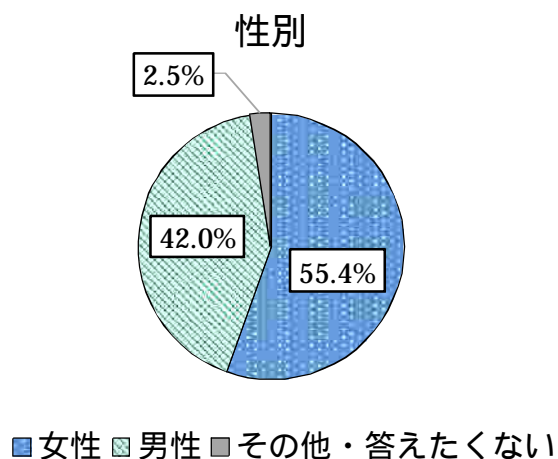
【参加者数】200 名程度 (環境施策課ブースのみ、全体では 13,000 人程度)

【実施内容】

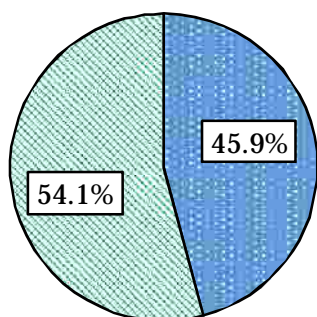
- ・大阪市生物多様性戦略〔中間報告〕パネル展示
- ・生物多様性に関するアンケートの実施



< アンケート結果 (回答総数 : 157 件) >

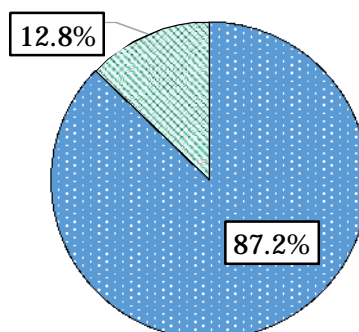


問1 . 生物多様性という言葉の意味を知っていますか？



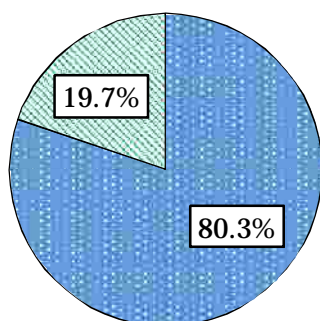
■ はい □ いいえ

問2 . 生活の中で生き物のめぐみを感じますか？



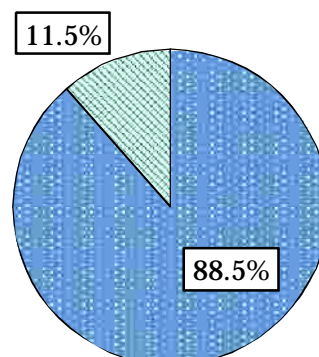
■ はい □ いいえ

問3 . 最近(概ね1か月)、生き物とふれあいましたか？



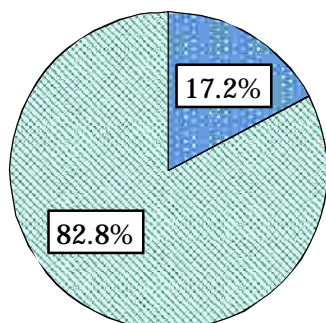
■ はい □ いいえ

問4 . なんばパークスなどビルの屋上で緑化していることを知っていますか？



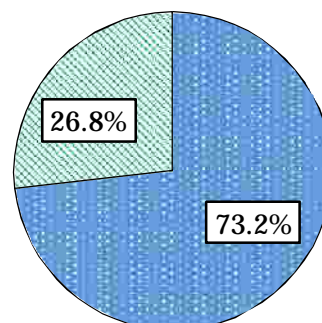
■ はい □ いいえ

問5 . 緑化している屋上で、絶滅の危機にある鳥に会えることを知っていますか？



■ はい □ いいえ

問6 . タコ焼きのタコの大半は輸入であることを知っていますか？



■ はい □ いいえ

(3) 環境ふれあい広場 in 東住吉

なにわエコ会議の会員団体や環境関連団体に取り組んでいる環境活動・環境教育などのブースや展示を一同に集め、子どもたちにブースをまわって遊びながら環境について学んでもらうイベントです。プレゼントがもらえるスタンプラリーや「ぼぼっぼくらぶ」のミニコンサート、また第1回なにわエコ会議賞表彰式も開催されました。

【日時】2017年11月23日(木)11時~15時

【場所】大阪市立東住吉区民ホール

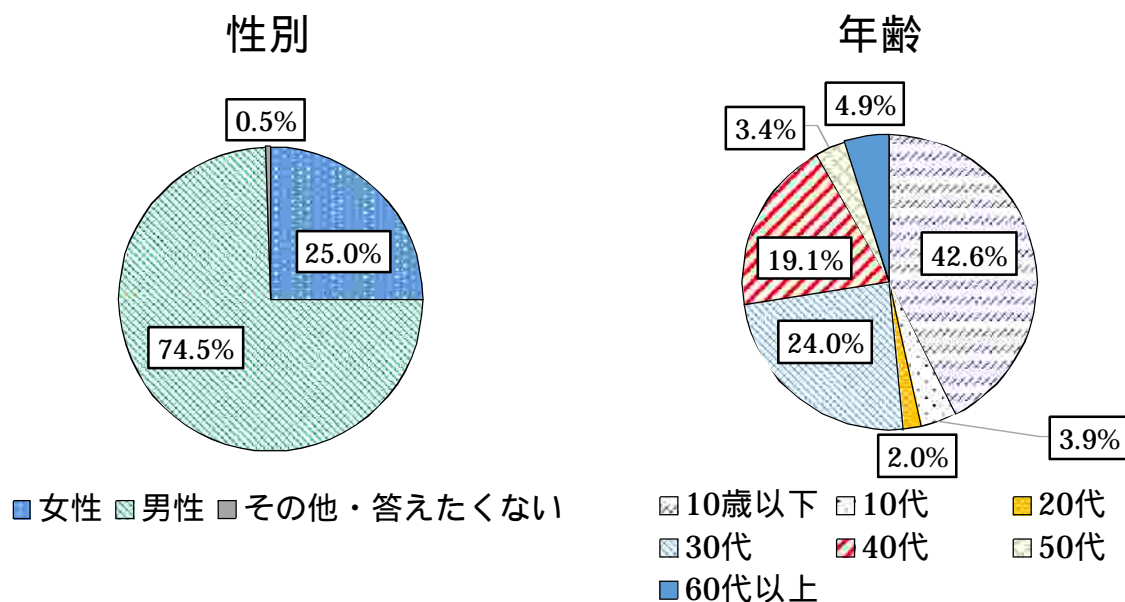
【参加者数】350名程度

【実施内容】

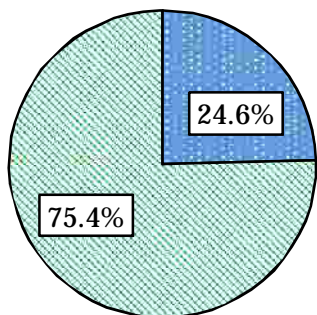
- ・大阪市生物多様性戦略〔中間報告〕パネル展示
- ・生物多様性に関するアンケートの実施



< アンケート結果 (回答総数：208件) >

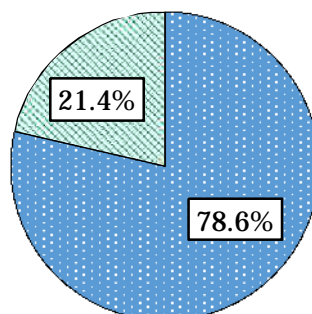


問1 . 生物多様性という言葉の意味を知っていますか？



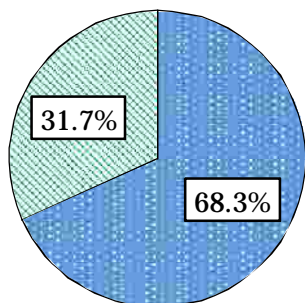
■ はい □ いいえ

問2 . 生活の中で生き物のめぐみを感じますか？



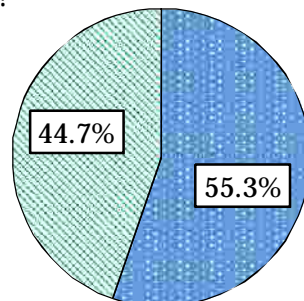
■ はい □ いいえ

問3 . 最近(概ね1か月)、生き物とふれあいましたか？



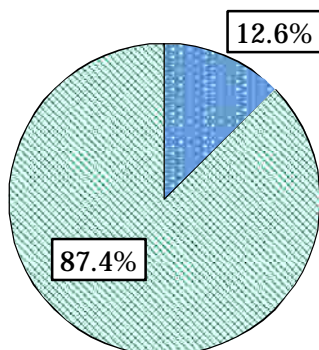
■ はい □ いいえ

問4 . なんばパークスなどビルの屋上で緑化していることを知っていますか？



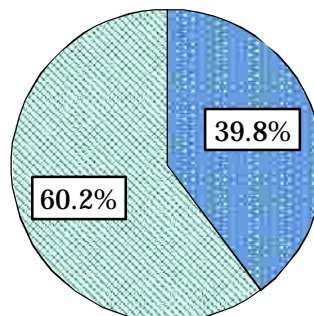
■ はい □ いいえ

問5 . 緑化している屋上で、絶滅の危機にある鳥に出会えることを知っていますか？



■ はい □ いいえ

問6 . タコ焼きのタコの大半は輸入であることを知っていますか？



■ はい □ いいえ

(4) 気候変動講演会 2017～弱者から考える地球温暖化～

大阪管区気象台・近畿地方環境事務所主催のイベントで、「これまでの観測事実と将来予測」、「変動する気候、激甚化する気象」及び「野生生物から見た地球温暖化」の3点について講演が行われました。

【日時】2017年12月2日(土)13時30分～15時30分

【場所】ドーンセンター パフォーマンススペース

【参加者数】120名程度

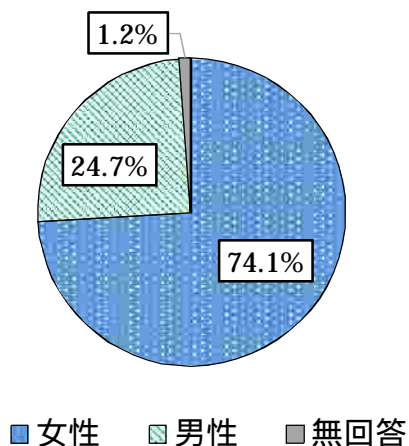
【実施内容】

- ・大阪市生物多様性戦略〔中間報告〕パネル展示
- ・生物多様性に関するアンケートの実施

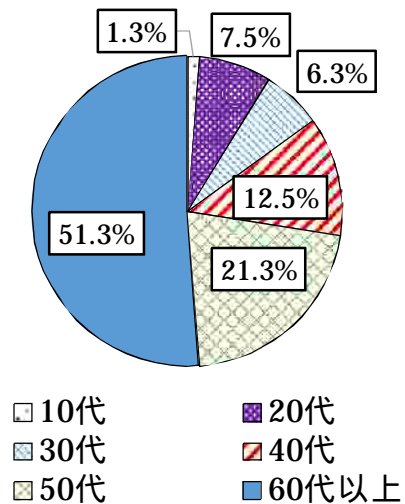


< アンケート結果 (回答総数：81件) >

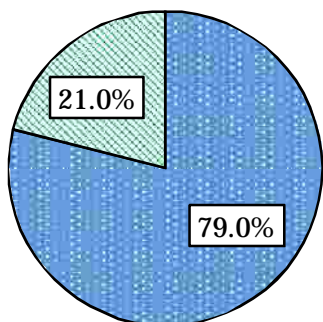
性別



年齢

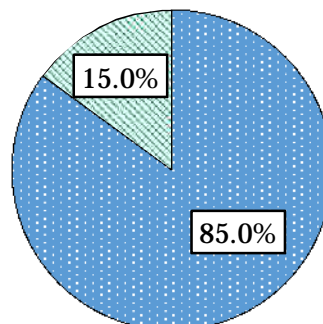


問1 . 生物多様性という言葉の意味を知っていますか？



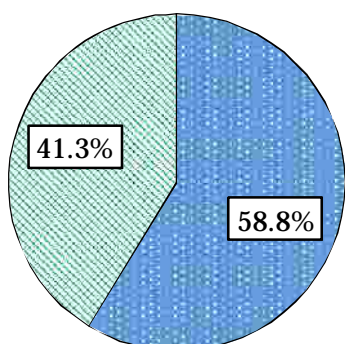
■ はい □ いいえ

問2 . 生活の中で生き物のめぐみを感じますか？



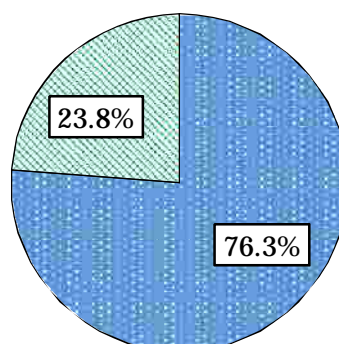
■ はい □ いいえ

問3 . 最近(概ね1か月)、生き物とふれあいましたか？



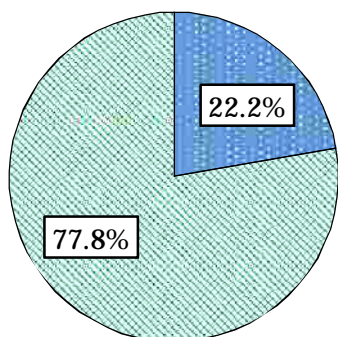
■ はい □ いいえ

問4 . なんばパークスなどビルの屋上で緑化していることを知っていますか？



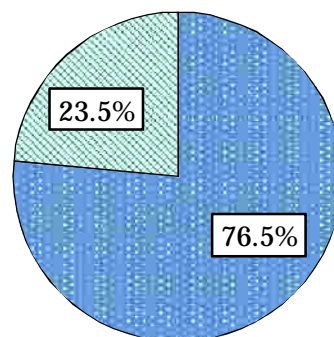
■ はい □ いいえ

問5 . 緑化している屋上で、絶滅の危機にある鳥に出会えることを知っていますか？



■ はい □ いいえ

問6 . タコ焼きのタコの大半は輸入であることを知っていますか？



■ はい □ いいえ

(5) エネマネハウス 2017

エネマネハウスは、「学生が考える実現可能な一次エネルギー消費量0の家」として、大学と民間企業等の連携により、先進的な技術や新たな住まい方を提案する ZEH のモデル住宅を実際に建築し、住宅の環境・エネルギー性能の測定・実証や、展示を通じた普及啓発を行うプロジェクトです。

【日時】2017年12月2日(土)～12月17日(日) 一般公開時間 10時～16時30分

2日(土)と16日(土)は13時30分～16時30分

17日(日)は10時～14時

【場所】大阪市うめきたサザンパーク(うめきた2期B区域)

【実施内容】

- ・大阪市生物多様性戦略〔中間報告〕パネル展示



4 . 大阪市内の生物相

(1) 大阪市内における保護上注目すべき生き物

本戦略の策定にあたり、大阪市内に生息・生育する生き物に関する情報について、各文献・標本などの資料を用いて、収集と整理を行いました。各種調査によると、1950年頃から大阪市内で生息・生育記録がある生き物は合計 4,504 種となります。このうち、大阪市内で現在生息・生育しているのは合計 4,472 種であると考えられます。また、大阪市内にかつて生息・生育していた記録が残っていますが、最後に確認されてから長時間経過しているため、大阪市内で既に絶滅したと考えられるのは 32 種となります。

これらのうち、大阪市立自然史博物館が、大阪生物多様性保全ネットワークのレッドデータブック部会の枠組みのもと、各文献・標本などの資料をもとに検討をおこない、大阪市内での生息・生育数が少ない 562 種と、絶滅種のうち外来の園芸種を除く 28 種を「保護上注目すべき生き物」として分類しました。

大阪市内における保護上注目すべき生き物（総括表）

No.	分類群	市内で生息・生育記録がある生き物		絶滅したと考えられる生き物（注1）			
		生息・生育していると考えられる生き物	保護上注目すべき生き物	保護上注目すべき生き物	保護上注目すべき生き物	外来の園芸種で既に絶滅したと考えられるもの	
1	ほ乳類	16	15	6	1	1	0
2	鳥類	324	324	61	0	0	0
3	爬虫類	11	9	6	2	2	0
4	両生類	7	4	2	3	3	0
5	汽水・淡水魚類	122	122	33	0	0	0
6	昆虫類	1,768	1,759	253	9	9	0
7	クモ類	100	100	6	0	0	0
8	陸産貝類	27	27	(注2)	(注2)	(注2)	(注2)
9	淡水産貝類	22	21	9	1	1	0
10	海岸生物（無脊椎動物及び藻類）	231	226	25	5	5	0
11	その他淡水産無脊椎動物	10	10	(注2)	(注2)	(注2)	(注2)
12	維管束植物	1,488	1,477	156	11	7	4
13	コケ植物	96	96	5	0	0	0
14	菌類	282	282	(注2)	(注2)	(注2)	(注2)
	合計	4,504	4,472	562	32	28	4

注1 大阪市内にかつて生息・生育していた記録が残っているが、最後に確認されてから長い時間が経過しているため、大阪市内ではすでに絶滅したと考えられる種。

注2 大阪市内の生息情報が少なく、データ収集と整理はできないため、生息状況の概要を示す。

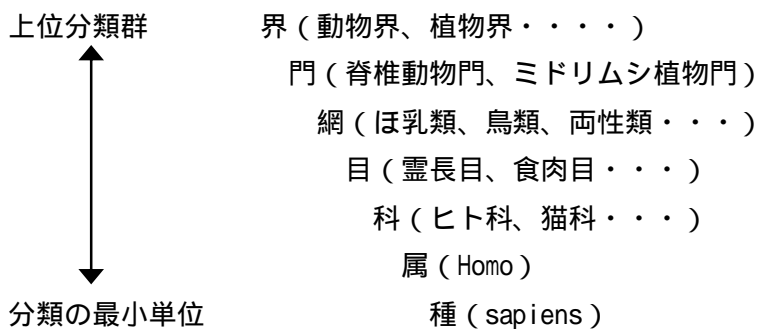
生物種の名称・分類などについて

生物種の名称

「和名」とは、生物につけられた日本特有の日本語の名称で、一般的に使われているものです。一方、「学名」は、生物学上、国際的に統一して使用するため、ラテン語で表記されており、国際命名規約にのっとり命名されます。

分類群

生き物は、大方次の7段階に分類されています。



参考(「大阪府レッドリスト2014」のカテゴリー及び定義)

カテゴリー	定義
絶滅	大阪府内ではすでに絶滅したと考えられる種
絶滅危惧 類	大阪府内において絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧 類	大阪府内において絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧	大阪府内において存続基盤が脆弱な種
情報不足	評価するだけの情報が不足している種(情報が集まれば絶滅危惧や準絶滅危惧に分類される可能性が高い種)

分類群ごとのリスト

ほ乳類

大阪市内では 16 種の哺乳類が確認されています。このうち、外来種は 9 種、在来種は 7 種で、この在来種のすべてを「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この 7 種のうち、大阪市内ですでに絶滅したと考えられているのはニホンイタチの 1 種で、現在生息している在来種の 6 種のうち、アブラコウモリは大阪市内に広く生息していますが、それ以外の 6 種（コウベモグラ、キツネ、タヌキ、カヤネズミ、アカネズミ）は、おもに淀川や大和川の河川敷に生息しています。淀川のヨシ原などの草地は、こうした在来種にとって重要な生息地となっています。

和名	目名	科名	学名	大阪市内の保護上 注目すべき生物	(参考)大阪府レッ ドリスト 2014
コウベモグラ	食虫目	モグラ科	<i>Mogera wogura</i>		
アブラコウモリ	翼手目	ヒナコウモリ科	<i>Pipistrellus abramus</i>		
キツネ	食肉目	イヌ科	<i>Vulpes vulpes</i>		絶滅危惧 I 類
タヌキ	食肉目	イヌ科	<i>Nyctereutes procyonoides</i>		
ニホンイタチ	食肉目	イタチ科	<i>Mustela itasi</i>	絶滅(注 1)	絶滅危惧 II 類
カヤネズミ	食肉目	ネズミ科	<i>Micromys minutus</i>		準絶滅危惧
アカネズミ	食肉目	ネズミ科	<i>Apodemus speciosus</i>		

注 1：市内にかつて生息・生育していた記録が残っているが、最後に確認されてから長い時間が経過しているため、市内ですでに絶滅したと考えられる種。

鳥類

大阪市内では 323 種の鳥類が確認されています。このうち、外来種は 13 種、在来種は 310 種で、この在来種のうち 61 種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この 61 種のうち、大阪市内で繁殖が記録されているのは 42 種で、うち 24 種は市街地で繁殖していますが、残りの 18 種は河川敷や埋立地の裸地や草地、水辺などで繁殖しています。野鳥園臨港緑地（もと南港野鳥園）や舞洲、夢洲は、現在多様な鳥類の生息地となっています。こうした場所は、チュウヒ、ヒバリ、セッカ、オオヨシキリなど大阪市内で繁殖する鳥に限らず、カモ類、シギ・チドリ類、カモメ類、フクロウ類、チュウヒ類、ハヤブサ類、ヒバリ、セッカ、オオヨシキリなど、数多くの鳥類の重要な生息地にもなっています。

和名	目名	科名	学名	大阪市内の保護上重 要な生物	(参考)大阪府レッ ドリスト 2014
ウズラ	キジ目	キジ科	<i>Coturnix japonica</i>	○	絶滅危惧 類
キジ	キジ目	キジ科	<i>Phasianus colchicus</i>	○	-
ウミアイサ	カモ目	カモ科	<i>Mergus serrator</i>	-	準絶滅危惧
カイツブリ	カイツブリ目	カイツブリ科	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	○	-
ヨシゴイ	ペリカン目	サギ科	<i>Ixobrychus sinensis</i>	○	絶滅危惧 類
ミソゴイ	ペリカン目	サギ科	<i>Gorsachius goisagi</i>	-	絶滅危惧 類
ゴイサギ	ペリカン目	サギ科	<i>Nycticorax nycticorax</i>	○	-
ササゴイ	ペリカン目	サギ科	<i>Butorides striata</i>	○	-
アマサギ	ペリカン目	サギ科	<i>Bubulcus ibis</i>	-	絶滅危惧 類
コサギ	ペリカン目	サギ科	<i>Egretta garzetta</i>	○	-
クイナ	ツル目	クイナ科	<i>Rallus aquaticus</i>	○	準絶滅危惧
ヒクイナ	ツル目	クイナ科	<i>Porzana fusca</i>	○	絶滅危惧 類
バン	ツル目	クイナ科	<i>Gallinula chloropus</i>	○	-
ツツドリ	カッコウ目	カッコウ科	<i>Cuculus optatus</i>	-	準絶滅危惧
ヨタカ	ヨタカ目	ヨタカ科	<i>Caprimulgus indicus</i>	-	絶滅危惧 類
タゲリ	チドリ目	チドリ科	<i>Vanellus vanellus</i>	-	準絶滅危惧
ケリ	チドリ目	チドリ科	<i>Vanellus cinereus</i>	○	準絶滅危惧
ムナグロ	チドリ目	チドリ科	<i>Pluvialis fulva</i>	○	絶滅危惧 類
ダイゼン	チドリ目	チドリ科	<i>Pluvialis squatarola</i>	○	絶滅危惧 類

イカルチドリ	チドリ目	チドリ科	<i>Charadrius placidus</i>	-	絶滅危惧 類
コチドリ	チドリ目	チドリ科	<i>Charadrius dubius</i>	○	準絶滅危惧
シロチドリ	チドリ目	チドリ科	<i>Charadrius alexandrinus</i>	○	絶滅危惧 類
メダイチドリ	チドリ目	チドリ科	<i>Charadrius mongolus</i>	○	絶滅危惧 類
オオメダイチドリ	チドリ目	チドリ科	<i>Charadrius leschenaultii</i>	-	準絶滅危惧
オオジシギ	チドリ目	シギ科	<i>Gallinago hardwickii</i>	○	準絶滅危惧
チュウジシギ	チドリ目	シギ科	<i>Gallinago megala</i>	○	準絶滅危惧
タシギ	チドリ目	シギ科	<i>Gallinago gallinago</i>	○	準絶滅危惧
オグロシギ	チドリ目	シギ科	<i>Limosa limosa</i>	○	準絶滅危惧
オオソリハシシギ	チドリ目	シギ科	<i>Limosa lapponica</i>	○	絶滅危惧 類
チュウシャクシギ	チドリ目	シギ科	<i>Numenius phaeopus</i>	○	準絶滅危惧
ダイシャクシギ	チドリ目	シギ科	<i>Numenius arquata</i>	○	準絶滅危惧
ハウロクシギ	チドリ目	シギ科	<i>Numenius madagascariensis</i>	○	準絶滅危惧
ツルシギ	チドリ目	シギ科	<i>Tringa erythropus</i>	○	絶滅危惧 類
アカアシシギ	チドリ目	シギ科	<i>Tringa totanus</i>	○	準絶滅危惧
コアアシシギ	チドリ目	シギ科	<i>Tringa stagnatilis</i>	○	準絶滅危惧
アオアシシギ	チドリ目	シギ科	<i>Tringa nebularia</i>	○	絶滅危惧 類
クサンシギ	チドリ目	シギ科	<i>Tringa ochropus</i>	-	準絶滅危惧
タカブシギ	チドリ目	シギ科	<i>Tringa glareola</i>	○	絶滅危惧 類
キアシシギ	チドリ目	シギ科	<i>Heteroscelus brevipes</i>	○	準絶滅危惧
ソリハシシギ	チドリ目	シギ科	<i>Xenus cinereus</i>	○	絶滅危惧 類
キョウジョシギ	チドリ目	シギ科	<i>Arenaria interpres</i>	○	絶滅危惧 類
オバシギ	チドリ目	シギ科	<i>Calidris tenuirostris</i>	○	絶滅危惧 類
イソシギ	チドリ目	シギ科	<i>Acidris hypoleucos</i>	-	準絶滅危惧
コオバシギ	チドリ目	シギ科	<i>Calidris canutus</i>	○	準絶滅危惧
ミコビシギ	チドリ目	シギ科	<i>Calidris alba</i>	-	準絶滅危惧
トウネン	チドリ目	シギ科	<i>Calidris nufcolis</i>	○	準絶滅危惧
オジロトウネン	チドリ目	シギ科	<i>Calidris temminckii</i>	○	準絶滅危惧
ヒバリシギ	チドリ目	シギ科	<i>Calidris subminuta</i>	○	絶滅危惧 類
ウズラシギ	チドリ目	シギ科	<i>Calidris acuminata</i>	○	絶滅危惧 類
サルハマシギ	チドリ目	シギ科	<i>Calidris ferruginea</i>	○	準絶滅危惧
ハマシギ	チドリ目	シギ科	<i>Calidris alpina</i>	○	-
キリアイ	チドリ目	シギ科	<i>Limicola falcinellus</i>	○	準絶滅危惧
エリマキシギ	チドリ目	シギ科	<i>Philomachus pugnax</i>	○	準絶滅危惧
アカエリヒエアシシギ	チドリ目	シギ科	<i>Phalaropus lobatus</i>	○	-
ツバメチドリ	チドリ目	ツバメチドリ科	<i>Glaucala maldivarum</i>	-	絶滅危惧 類
ズグロカモメ	チドリ目	カモメ科	<i>Larus saundersi</i>	-	準絶滅危惧
タマシギ	チドリ目	タマシギ科	<i>Rostrella benghalensis</i>	-	絶滅危惧 類
コアジサシ	チドリ目	カモメ科	<i>Stema albifrons</i>	○	絶滅危惧 類
ベニアジサシ	チドリ目	カモメ科	<i>Stema dougallii</i>	○	準絶滅危惧
ハチクマ	チドリ目	カモメ科	<i>Pemis pitlorhynchus</i>	-	絶滅危惧 類
チュウヒ	タカ目	タカ科	<i>Circus spilonotus</i>	○	絶滅危惧 類
ハイイロチュウヒ	タカ目	タカ科	<i>Circus cyaneus</i>	○	準絶滅危惧
ツミ	タカ目	タカ科	<i>Accipiter gularis</i>	-	絶滅危惧 類
オオタカ	タカ目	タカ科	<i>Accipiter gentilis</i>	-	絶滅危惧 類
サンバ	タカ目	タカ科	<i>Buteo indicus</i>	-	絶滅危惧 類
ノスリ	タカ目	タカ科	<i>Buteo buteo</i>	○	準絶滅危惧
フクロウ	フクロウ目	フクロウ科	<i>Strix unalensis</i>	-	準絶滅危惧
アオバズク	フクロウ目	フクロウ科	<i>Ninox scutulata</i>	-	絶滅危惧 類
トラフズク	フクロウ目	フクロウ科	<i>Asio otus</i>	○	絶滅危惧 類
コミミズク	フクロウ目	フクロウ科	<i>Asio flammeus</i>	○	絶滅危惧 類
オオアカゲラ	キツキ目	キツキ科	<i>Dendrocopos leucotos</i>	-	準絶滅危惧
コチョウゲンボウ	ハヤブサ目	ハヤブサ科	<i>Falco columbarius</i>	○	準絶滅危惧
ハヤブサ	ハヤブサ目	ハヤブサ科	<i>Falco peregrinus</i>	○	-
モズ	スズメ目	モズ科	<i>Lanius bucephalus</i>	○	-
ツリスガラ	スズメ目	ツリスガラ科	<i>Remiz pendulinus</i>	○	-
ヒバリ	スズメ目	ヒバリ科	<i>Alauda arvensis</i>	○	準絶滅危惧
コシアカツバメ	スズメ目	ツバメ科	<i>Hirundo daurica</i>	-	準絶滅危惧
センダイムシクイ	スズメ目	ムシクイ科	<i>Phylloscopus coronatus</i>	-	準絶滅危惧
オオヨシキリ	スズメ目	ヨシキリ科	<i>Acrocephalus orientalis</i>	○	準絶滅危惧
セッカ	スズメ目	セッカ科	<i>Cisticola juncidis</i>	○	準絶滅危惧
トラツグミ	スズメ目	ヒタキ科	<i>Zoothera dauma</i>	-	準絶滅危惧
セグロセキレイ	スズメ目	セキレイ科	<i>Motacilla grandis</i>	○	-
ベニマシコ	スズメ目	アトリ科	<i>Uragus sibiricus</i>	○	-
ホオアカ	スズメ目	ホオジロ科	<i>Emberiza fucata</i>	○	準絶滅危惧
カシラダカ	スズメ目	ホオジロ科	<i>Emberiza rustica</i>	-	準絶滅危惧

ミヤマホオジロ	スズメ目	ホオジロ科	<i>Emberiza elegans</i>	-	準絶滅危惧
オオジュリン	スズメ目	ホオジロ科	<i>Emberiza schoeniclus</i>	○	準絶滅危惧
サンショウクイ	スズメ目	サンショウクイ科	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	-	絶滅危惧 類
コサメビタキ	スズメ目	ヒタキ科	<i>Muscicapa dauurica</i>	-	絶滅危惧 類

爬虫類

大阪市内では11種の爬虫類が確認されています。このうち、外来種は1種、在来種は10種で、この在来種のうち8種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この8種のうち、家屋に生息するアオダイショウ以外の生息地は主に水辺周辺や草地などです。大阪市内ではこのような自然環境は減少しており、公園などで細々と生き延びています。

和名	目名	科名	学名	大阪市内の保護上 注目すべき生物	(参考)大阪府レ ッドリスト2014
ニホンイシガメ	カメ目	イシガメ科	<i>Mauremys japonica</i>	○	準絶滅危惧
ニホンスッポン	カメ目	スッポン科	<i>Pelodiscus sinensis</i>	○	-
ニホントカゲ	有鱗目	トカゲ科	<i>Plestiodon japonicus</i>	○	-
ニホンカナヘビ	有鱗目	カナヘビ科	<i>Takydromus tachydromoides</i>	○	-
アオダイショウ	有鱗目	ナミヘビ科	<i>Elaphe climacophora</i>	○	-
シマヘビ	有鱗目	ナミヘビ科	<i>Elaphe quadrivirgata</i>	○	-
ヒバカリ	有鱗目	ナミヘビ科	<i>Hebius vibakari</i>	絶滅(注1)	絶滅危惧 類
ニホンマムシ	有鱗目	クサリヘビ科	<i>Gloydius blomhoffii</i>	絶滅(注1)	-

注1：市内にかつて生息・生育していた記録が残っているが、最後に確認されてから長い時間が経過しているため、市内ではすでに絶滅したと考えられる種。

両生類

大阪市内では7種の両生類が確認されています。このうち、外来種は2種、在来種は5種で、この在来種のすべてを「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この5種のうち、かつて大阪市内の水田周辺に生息していたニホンアカガエル、ダルマガエル、トノサマガエルの3種は大阪市内ではすでに絶滅しており、現在生息しているのは、ニホンアマガエルとヌマガエルのみです。水田に生息するヌマガエルは、大阪市内では水田が減少しているため、ほとんど見られなくなっています。ニホンアマガエルは、水田以外の場所でも生息することができますが、繁殖には水辺環境が必要で、水辺環境の減少によって、姿が見られなくなっています。

和名	目名	科名	学名	大阪市内の保護上 注目すべき生物	(参考)大阪府レ ッドリスト2014
ニホンアマガエル	無尾類	アマガエル科	<i>Hyla japonica</i>	絶滅(注1)	-
ニホンアカガエル	無尾類	アカガエル科	<i>Rana japonica</i>	○	絶滅危惧 類
ツチガエル	無尾類	アカガエル科	<i>Glandirana rugosa</i>	-	準絶滅危惧
ダルマガエル	無尾類	アカガエル科	<i>Pelophylax porosus</i>	絶滅(注1)	絶滅危惧 類
トノサマガエル	無尾類	アカガエル科	<i>Pelophylax nigromaculatus</i>	絶滅(注1)	準絶滅危惧
ヌマガエル	無尾類	ヌマガエル科	<i>Fejervarya kawamurai</i>	○	-

注1：市内にかつて生息・生育していた記録が残っているが、最後に確認されてから長い時間が経過しているため、市内ではすでに絶滅したと考えられる種。

汽水・淡水魚類

大阪市内では122種の汽水・淡水魚類が確認されています。このうち、外来種は25種、在来種は97種で、この在来種のうち33種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この33

種のうち 27 種が純淡水魚で、淀川水系を中心に見られていたアユモドキ、イチモンジタナゴ、ニッポンバラタナゴ、カワバタモロコ、ツチフキは近年生息が確認されていません。また、生息域外保全によって野生復帰したイタセンパラをはじめとするタナゴ類数種は、淀川ワンド群のわずかな水域に分布が限られており、外来種の継続的な駆除等、人の管理によって個体群が維持されている状況です。琵琶湖淀川水系の固有種であるヨドゼゼラやワタカについても個体数が減少しており、淀川ワンド群はこれらの種にとっても重要な生息域となっています。ミナミメダカは、かつては市内各地の水域に生息していましたが、水田の減少や河川の護岸化、外来種であるカダヤシの分布拡大などにより生息域が激減しています。在来魚の保全上特に重要な場所として、淡水域では淀川ワンド域、汽水域・海域では十三干潟から矢倉海岸や大和川河口干潟などの淀川・大和川汽水域があげられます。

和名	目名	科名	学名	大阪市内の保護上 注目すべき生物	(参考)大阪府レ ッドリスト 2014
ニホンウナギ	ウナギ科	ウナギ目	<i>Anguilla japonica</i>	○	絶滅危惧 類
ゲンゴロウブナ	コイ科	コイ目	<i>Carassius cuvieri</i>	○	-
ヤリタナゴ	コイ科	コイ目	<i>Tanakia lanceolata</i>	○	絶滅危惧 類
イチモンジタナゴ	コイ科	コイ目	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	○	絶滅危惧 類
イタセンパラ	コイ科	コイ目	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	○	絶滅危惧 類
シロヒレタビラ	コイ科	コイ目	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	○	絶滅危惧 類
ニッポンバラタナゴ	コイ科	コイ目	<i>Rhodeus ocellatus kummeus</i>	○	絶滅危惧 類
ワタカ	コイ科	コイ目	<i>Ischikauia steenackeri</i>	○	絶滅危惧 類
カワバタモロコ	コイ科	コイ目	<i>Hemigrammocypnis rasborella</i>	○	絶滅危惧 類
ハス	コイ科	コイ目	<i>Opsarichthys uncirostris uncirostris</i>	○	準絶滅危惧
ウグイ	コイ科	コイ目	<i>Tribolodon hakonensis</i>	○	情報不足
カワヒガイ	コイ科	コイ目	<i>Sarcocheilichthys variegatus variegatus</i>	○	絶滅危惧 類
ムギツク	コイ科	コイ目	<i>Pungtungia herzi</i>	○	絶滅危惧 類
タモロコ	コイ科	コイ目	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	○	準絶滅危惧
ゼゼラ	コイ科	コイ目	<i>Bivia zezera</i>	○	絶滅危惧 類
ヨドゼゼラ	コイ科	コイ目	<i>Bivia yodoensis</i>	○	絶滅危惧 類
ツチフキ	コイ科	コイ目	<i>Abbottina rivularis</i>	○	絶滅危惧 類
デメモロコ	コイ科	コイ目	<i>Squalidus japonicus japonicus</i>	○	情報不足
アユモドキ	ドジョウ科	コイ目	<i>Parabotia curtus</i>	○	絶滅危惧 類
ドジョウ	ドジョウ科	コイ目	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	○	絶滅危惧 類
ヨドコガタスジシマド ジョウ	ドジョウ科	コイ目	<i>Cobitis minamorii yodoensis</i>	○	絶滅危惧 類
チュウガタスジシマド ジョウ	ドジョウ科	コイ目	<i>Cobitis striata striata</i>	○	絶滅危惧 類
ギギ	ギギ科	ナマス目	<i>Tachysurus nudiceps</i>	○	準絶滅危惧
ビウコオオナマス	ナマス科	ナマス目	<i>Silurus biwaensis</i>	○	準絶滅危惧
ナマス	ナマス科	ナマス目	<i>Silurus asotus</i>	○	準絶滅危惧
アユ	アユ科	サケ目	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	○	準絶滅危惧
シラウオ	シラウオ科	サケ目	<i>Salangichthys microdon</i>	○	情報不足
サツキマス・アマゴ	サケ科	サケ目	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>	○	情報不足
ミナミメダカ	メダカ科	ダツ目	<i>Oryzias latipes</i>	○	絶滅危惧 類
ドンコ	ドンコ科	スズキ目	<i>Odontobutis obscura</i>	○	-
ゴクラクハゼ	ハゼ科	スズキ目	<i>Rhinogobius similis</i>	○	-
シマヒレヨシノボリ	ハゼ科	スズキ目	<i>Rhinogobius sp. BF</i>	○	準絶滅危惧
ウキゴリ	ハゼ科	スズキ目	<i>Gymnogobius urotaenia</i>	○	準絶滅危惧

：大阪市内における希少性・絶滅の危険性を判断するための情報が不足している種。

昆虫

大阪市内では 1,779 種の昆虫が確認されています。このうち、外来種は 88 種、在来種は 1,691 種で、この在来種のうち 262 種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この 262 種のうち、水辺環境の減少などにより、すでに絶滅したと考えられているのはマルコガタノゲンゴロ

ウヤコバンムシなどの9種で、現在生息している在来種についても、多くの種の個体数が減少しており、水生昆虫でその傾向は顕著であると言えます。ヒヌマイトトンボは、近年個体数は少ないものの、淀川汽水域のヨシ原で確認されています。また、淀川ワンド群はアメンボ類など水生昆虫の重要な生息地であり、特にエサキアメンボは市内では城北ワンドでの記録しかなく、近年個体数は減少していると考えられます。

カミキリムシやクワガタなど樹木や朽木に依存する昆虫は、市街化に伴い林が失われていく中、社寺林や河川敷に残った林などで細々と生息していましたが、林の縮小・乾燥化により個体数はさらに減少しています。また、ツシマヒメサビキコリをはじめとする甲虫類などは、草地や砂地の減少により個体数も減少し、かつて多く見られたドウガネブイブイも現在では非常に少なくなっています。

和名	目名	科名	学名	大阪市内の保護上重要な生物	(参考)大阪府レッドリスト 2014
ホソイトトンボ	カゲロウ目	イトトンボ科	<i>Aciagrion migratum</i>	○	準絶滅危惧
キイトトンボ	カゲロウ目	イトトンボ科	<i>Ceragrion melanurum</i>	○	準絶滅危惧
ベニイトトンボ	カゲロウ目	イトトンボ科	<i>Ceragrion nipponicum</i>	○	準絶滅危惧
ヒヌマイトトンボ	カゲロウ目	イトトンボ科	<i>Montagrion hirosei</i>	○	絶滅危惧 類
モートンイトトンボ	カゲロウ目	イトトンボ科	<i>Montagrion selenion</i>	○	絶滅危惧 類
セスジイトトンボ	カゲロウ目	イトトンボ科	<i>Paracercion hieroglyphicum</i>	○	準絶滅危惧
ムスジイトトンボ	カゲロウ目	イトトンボ科	<i>Paracercion melanotum</i>	○	-
オオイトトンボ	カゲロウ目	イトトンボ科	<i>Paracercion sieboldii</i>	○	絶滅危惧 類
モノサシトンボ	カゲロウ目	モノサシトンボ科	<i>Coperia annulata</i>	○	-
コバナアオイトトンボ	カゲロウ目	アオイトトンボ科	<i>Lestes japonicus</i>	絶滅(注1)	絶滅危惧 類
オツネイトトンボ	カゲロウ目	アオイトトンボ科	<i>Sympetma paedisca</i>	○	準絶滅危惧
ハグロトンボ	カゲロウ目	カワトンボ科	<i>Calopteryx atrata</i>	○	-
アオハダトンボ	カゲロウ目	カワトンボ科	<i>Calopteryx japonica</i>	絶滅(注1)	絶滅危惧 類
ミヤマサナエ	カゲロウ目	サナエトンボ科	<i>Anisogomphus maacki</i>	○	絶滅危惧 類
ホンサナエ	カゲロウ目	サナエトンボ科	<i>Gomphus postocularis</i>	○	絶滅危惧 類
オナガサナエ	カゲロウ目	サナエトンボ科	<i>Onychogomphus viridicostus</i>	○	-
コオニヤンマ	カゲロウ目	サナエトンボ科	<i>Sieboldius albardae</i>	○	-
ウチワヤンマ	カゲロウ目	サナエトンボ科	<i>Sinictinogomphus clavatus</i>	○	準絶滅危惧
オオサカサナエ	カゲロウ目	サナエトンボ科	<i>Stylurus amulatus</i>	○	絶滅危惧 類
ナゴヤサナエ	カゲロウ目	サナエトンボ科	<i>Stylurus nagoyanus</i>	○	情報不足
メガネサナエ	カゲロウ目	サナエトンボ科	<i>Stylurus oculatus</i>	○	絶滅危惧 類
フタスジサナエ	カゲロウ目	サナエトンボ科	<i>Trigomphus interruptus</i>	○	準絶滅危惧
オグマサナエ	カゲロウ目	サナエトンボ科	<i>Trigomphus ogumai</i>	○	絶滅危惧 類
ネアカヨシヤンマ	トンボ目	ヤンマ科	<i>Aeschnophlebia anisoptera</i>	○	絶滅危惧 類
アオヤンマ	トンボ目	ヤンマ科	<i>Aeschnophlebia longistigma</i>	○	絶滅危惧 類
マルタンヤンマ	トンボ目	ヤンマ科	<i>Anaciaeschna martini</i>	○	準絶滅危惧
クロスジヤンマ	トンボ目	ヤンマ科	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>	○	-
カトリヤンマ	トンボ目	ヤンマ科	<i>Gynacantha japonica</i>	○	準絶滅危惧
オニヤンマ	トンボ目	オニヤンマ科	<i>Anotogaster sieboldii</i>	○	-
トラフトンボ	トンボ目	エゾトンボ科	<i>Epithea marginata</i>	○	準絶滅危惧
コヤマトンボ	トンボ目	ヤマトンボ科	<i>Macromia amphigena amphigena</i>	○	-
コフキトンボ	トンボ目	トンボ科	<i>Deilelia phaon</i>	○	準絶滅危惧
ベッコウトンボ	トンボ目	トンボ科	<i>Libellula angelina</i>	絶滅(注1)	絶滅
ヨツボシトンボ	トンボ目	トンボ科	<i>Libellula quadrimaculata asahinai</i>	○	準絶滅危惧
ハラビロトンボ	トンボ目	トンボ科	<i>Lyriothemis pachygastra</i>	○	-
シオヤトンボ	トンボ目	トンボ科	<i>Orthetrum japonicum japonicum</i>	○	-
チョウトンボ	トンボ目	トンボ科	<i>Rhyothemis fuliginosa</i>	○	-
コノシメトンボ	トンボ目	トンボ科	<i>Sympetrum baccha matutinum</i>	○	-
キトンボ	トンボ目	トンボ科	<i>Sympetrum croceolum</i>	○	絶滅危惧 類
ナツアカネ	トンボ目	トンボ科	<i>Sympetrum darwinianum</i>	○	準絶滅危惧
マユテアカネ	トンボ目	トンボ科	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>	○	-
アキアカネ	トンボ目	トンボ科	<i>Sympetrum frequens</i>	○	準絶滅危惧
ナニワトンボ	トンボ目	トンボ科	<i>Sympetrum gracile</i>	○	絶滅危惧 類
ノシメトンボ	トンボ目	トンボ科	<i>Sympetrum infuscatum</i>	○	準絶滅危惧
マイコアカネ	トンボ目	トンボ科	<i>Sympetrum kunckeli</i>	○	準絶滅危惧
ヒメアカネ	トンボ目	トンボ科	<i>Sympetrum parvulum</i>	○	準絶滅危惧

リスアカネ	トンボ目	トンボ科	<i>Sympetrum risi risi</i>	○	-
タイリクアカネ	トンボ目	トンボ科	<i>Sympetrum striolatum imitoides</i>	○	-
オオキトンボ	トンボ目	トンボ科	<i>Sympetrum uniforme</i>	○	絶滅危惧 類
オオゴキブリ	ゴキブリ目	オオゴキブリ科	<i>Panesthia angustipennis spadica</i>	○	-
キョウトゴキブリ	ゴキブリ目	チャバネゴキブリ科	<i>Asiablatta kyotensis</i>	○	情報不足
ツチゴキブリ	ゴキブリ目	チャバネゴキブリ科	<i>Margattea kumamotois kumamotois</i>	○	-
ヤマトゴキブリ	ゴキブリ目	ゴキブリ科	<i>Periplaneta japonica</i>	○	-
スズムシ	カマキリ目	マツムシ科	<i>Meloinorpha japonica</i>	○	-
キンヒバリ	カマキリ目	ヒバリモドキ科	<i>Natula matsurai</i>	○	-
マツムシ	カマキリ目	ヒバリモドキ科	<i>Xenogryllus marmoratus</i>	○	-
ケラ	カマキリ目	ケラ科	<i>Gryllotalpa orientalis</i>	○	-
ニセハネナガヒシバッタ	カマキリ目	ヒシバッタ科	<i>Ergatettix dorsifer</i>	○	-
ヒメヒシバッタ	カマキリ目	ヒシバッタ科	<i>Tetrix minor</i>	○	-
クツムシ	カマキリ目	キリギリス科	<i>Mecopoda nipponensis</i>	○	準絶滅危惧
ヒナバッタ	バッタ目	バッタ科	<i>Chorhippus brunneus</i>	○	-
クルマバッタ	バッタ目	バッタ科	<i>Gastrimargus marmoratus</i>	○	-
ハネナガイナゴ	バッタ目	イナゴ科	<i>Oxya japonica</i>	○	-
ナナフシモドキ	ナナフシ目	ナナフシモドキ科	<i>Ramulus mikado</i>	○	-
コヒゲジロハサミムシ	ハサミムシ目	マルムネハサミムシ科	<i>Euborellia annulipes</i>	-	絶滅危惧 類
ムモンミズカメムシ	カメムシ目	ミズカメムシ科	<i>Mesovelia miyamotoi</i>	○	準絶滅危惧
イトアメンボ	カメムシ目	イトアメンボ科	<i>Hydrometra albolineata</i>	○	絶滅危惧 類
オオアメンボ	カメムシ目	アメンボ科	<i>Aquarius elongatus</i>	○	-
ヤスマツアメンボ	カメムシ目	アメンボ科	<i>Gerris insularis</i>	○	準絶滅危惧
エサキアメンボ	カメムシ目	アメンボ科	<i>Limnoporus esakii</i>	○	絶滅危惧 類
コバンムシ	カメムシ目	コバンムシ科	<i>Ilycois exclamationis</i>	絶滅(注1)	絶滅危惧 類
コオイムシ	カメムシ目	コオイムシ科	<i>Appasus japonicus</i>	○	準絶滅危惧
タガメ	カメムシ目	コオイムシ科	<i>Lethocerus deyrollei</i>	絶滅(注1)	絶滅危惧 類
タイコウチ	カメムシ目	タイコウチ科	<i>Laccotrephes japonensis</i>	○	-
ミズカマキリ	カメムシ目	タイコウチ科	<i>Ranatra chinensis</i>	○	準絶滅危惧
ヒメミズカマキリ	カメムシ目	タイコウチ科	<i>Ranatra unicolor</i>	○	準絶滅危惧
ミゾナシミズムシ	カメムシ目	ミズムシ科	<i>Cynatia apparens</i>	○	-
ホッケミズムシ	カメムシ目	ミズムシ科	<i>Hesperocorixa distanti hokkensis</i>	○	-
チッチゼミ	カメムシ目	ゼミ科	<i>Cicadetta radiator</i>	○	-
ヤマトシリアゲ	シリアゲムシ目	シリアゲムシ科	<i>Panorpa japonica</i>	○	-
モイワウスバカゲロウ	アミメカゲロウ目	クサカゲロウ科	<i>Epacanthclisis moiwana</i>	○	-
ホシウスバカゲロウ	アミメカゲロウ目	ウスバカゲロウ科	<i>Paraglenurus japonicus</i>	○	-
キョウコシマハナアブ	トビケラ目	ムシヒキアブ科	<i>Eristalis kyokoe</i>	○	-
コマバムツボシヒラタアブ	トビケラ目	ムシヒキアブ科	<i>Scaeva komabensis</i>	○	-
クロベッコウハナアブ	トビケラ目	ヤドリバエ科	<i>Volucella nigricans</i>	○	-
シロスジベッコウハナアブ	トビケラ目	ヤドリバエ科	<i>Volucella pellucens</i>	○	-
ヨドシロヘリハンミョウ	コウチュウ目	ハンミョウ科	<i>Cicindela insularis</i>	絶滅(注1)	絶滅
エリザハンミョウ	コウチュウ目	ハンミョウ科	<i>Cylindera elisae elisae</i>	○	-
コハンミョウ	コウチュウ目	ハンミョウ科	<i>Cylindera insularis</i>	○	-
ナガマルガタゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	<i>Amara macronota ovalipennis</i>	○	-
スジミズアトキリゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	<i>Apristus grandis</i>	○	-
ヨツボシミズギワゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	<i>Bembidion morawitzi</i>	○	-
エソカタピロオサムシ	コウチュウ目	オサムシ科	<i>Campanita chinense</i>	○	-
オオアトボシアオゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	<i>Chlaenius micans</i>	○	-
アオゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	<i>Chlaenius pallipes</i>	○	-
マイマイカブリ	コウチュウ目	オサムシ科	<i>Damaster blaptoides</i>	○	-
オオスナハラゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	<i>Diplocheila zeelandica</i>	○	-
アリスアトキリゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	<i>Lachnoderma asperum</i>	○	-
クロオビコムズギワゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	<i>Paratachys fasciatus uenoi</i>	○	-
コガシラナガゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	<i>Pterostichus microcephalus</i>	○	-
キンナガゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	<i>Pterostichus planicollis</i>	○	-
オオクロナガゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	<i>Pterostichus prolongatus</i>	○	-
オオヒョウタンゴミムシ	コウチュウ目	オサムシ科	<i>Scarites sulcatus</i>	絶滅(注1)	絶滅危惧 類
ムツボシツヤコツゲンゴロウ	コウチュウ目	コツゲンゴロウ科	<i>Canthidus politus</i>	○	情報不足
コツゲンゴロウ	コウチュウ目	コツゲンゴロウ科	<i>Noterus japonicus</i>	○	-
ゲンゴロウ	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	<i>Cybister japonicus</i>	○	絶滅危惧 類
マルコガタノゲンゴロウ	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	<i>Cybister lewisianus</i>	絶滅(注1)	絶滅
シャープゲンゴロウモドキ	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	<i>Dytiscus sharpi</i>	絶滅(注1)	絶滅

コシマゲンゴロウ	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	<i>Hydaticus grammicus</i>	○	-
ケシゲンゴロウ	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	<i>Hyphydrus japonicus</i>	○	準絶滅危惧
ヒメゲンゴロウ	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	<i>Rhantus suturalis</i>	○	-
ミススマシ	コウチュウ目	ミススマシ科	<i>Gyrinus japonicus</i>	○	絶滅危惧 類
セマルケシガムシ	コウチュウ目	ガムシ科	<i>Cryptopleurum subtile</i>	○	-
コガムシ	コウチュウ目	ガムシ科	<i>Hydrochara affinis</i>	○	準絶滅危惧
ヒメガムシ	コウチュウ目	ガムシ科	<i>Stemolophus rufipes</i>	○	-
ツシマヒラタシデムシ	コウチュウ目	シデムシ科	<i>Eustilpha jakowlewi</i>	○	準絶滅危惧
モモトシデムシ	コウチュウ目	シデムシ科	<i>Necrodes nigricornis</i>	○	-
コクロシデムシ	コウチュウ目	シデムシ科	<i>Ptomascopus morio</i>	○	-
オニヒラタシデムシ	コウチュウ目	シデムシ科	<i>Thanatophilus rugosus</i>	○	-
ヒメヒラタシデムシ	コウチュウ目	シデムシ科	<i>Thanatophilus sinuatus</i>	○	-
チビクワガタ	コウチュウ目	クワガタムシ科	<i>Figulus binodulus</i>	○	-
クワガタ	コウチュウ目	クワガタムシ科	<i>Macroderes rectus</i>	-	-
ノコギリクワガタ	コウチュウ目	クワガタムシ科	<i>Prosopocoilus inclinatus</i>	○	-
ドウガネブイブイ	コウチュウ目	コガネムシ科	<i>Anomala cuprea</i>	○	準絶滅危惧
オオサカスジコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	<i>Anomala osakana</i>	○	-
ハンノヒメコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	<i>Anomala puncticollis</i>	○	-
ヒメコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	<i>Anomala rufocuprea</i>	○	-
コスジマグソコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	<i>Aphodius lewisii</i>	○	-
コマグソコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	<i>Aphodius pusillus</i>	○	-
フチケマグソコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	<i>Aphodius urostigma</i>	○	-
アオハナムグリ	コウチュウ目	コガネムシ科	<i>Cetonia roelofsi roelofsi</i>	○	-
コカブトムシ	コウチュウ目	コガネムシ科	<i>Eophileurus chinensis chinensis</i>	○	-
ナガチャコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	<i>Heptophylla picea</i>	○	-
コクロコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	<i>Holotrichia picea</i>	-	-
コガネムシ	コウチュウ目	コガネムシ科	<i>Mimela splendens</i>	○	-
マルエンマコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	<i>Onthophagus viduus</i>	○	絶滅危惧 類
ウスチャコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	<i>Phyllopertha diversa</i>	○	-
ヒゲコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	<i>Polyphylla laticollis laticollis</i>	○	絶滅危惧 類
セマルケシマグソコガネ	コウチュウ目	コガネムシ科	<i>Psammodytes convexus</i>	-	準絶滅危惧
シラケナガタムシ	コウチュウ目	タムシ科	<i>Agrilus pilosovittatus</i>	○	-
ウバタムシ	コウチュウ目	タムシ科	<i>Chalcophora japonica</i>	○	-
ハマベオオヒメサビキコリ	コウチュウ目	コメツキムシ科	<i>Agrypnus tsukamotoi tsukamotoi</i>	-	絶滅危惧 類
ツシマヒメサビキコリ	コウチュウ目	コメツキムシ科	<i>Agrypnus tsushimensis</i>	○	準絶滅危惧
ウバタマコメツキ	コウチュウ目	コメツキムシ科	<i>Cryptalaus berus</i>	○	-
ジュウジミズギワコメツキ	コウチュウ目	コメツキムシ科	<i>Migiwa cruciatus</i>	○	-
ヤマトヒメメダカコウムシ	コウチュウ目	カッコウムシ科	<i>Neohydus hozumii</i>	○	-
ジュウクホシテントウ	コウチュウ目	テントウムシダマシ科	<i>Anisosticta kobensis</i>	○	準絶滅危惧
ジュウサンホシテントウ	コウチュウ目	テントウムシ科	<i>Hippodamia tredecimpunctata</i>	○	準絶滅危惧
クロスジチャイロテントウ	コウチュウ目	テントウムシ科	<i>Micraspis kiotoensis</i>	○	準絶滅危惧
アカイロテントウ	コウチュウ目	テントウムシ科	<i>Rodolia concolor</i>	○	-
ヨツコブゴミムシダマシ	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	<i>Utoma bonzeca</i>	○	-
クチキムシ	コウチュウ目	クチキムシ科	<i>Allecula melanaria</i>	○	-
ピロウドカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Acalolepta fraudatrix</i>	○	-
ゴマダラカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Anoplophora malasiaca</i>	○	-
シロスジカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Batoceera lineolata</i>	○	-
ケフトハナカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Caraphia lepturoides</i>	○	絶滅危惧 類
クロトラカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Chlorophonus diademus</i>	○	-
フタオビミドリトラカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Chlorophonus muscosus</i>	○	-
シラケトラカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Clytus melaenus</i>	○	-
アカハナカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Corymbia succedanea</i>	○	-
クモガタケシカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Exocentrus fasciolatus</i>	○	-
オオヨツスジハナカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Macroleptura regalis</i>	○	-
ナガゴマフカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Mesosa longipennis</i>	○	-
マツノマダラカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Monochamus altematus</i>	○	-
ヒゲナガカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Monochamus grandis</i>	○	-
オオシロカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Olenecamptus cretaeus</i>	○	-
ヒメスギカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Palaeocallidium rufipenne</i>	○	-
ノコギリカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Prionus insularis</i>	○	-
コバネカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Psephactus remiger</i>	○	-
ベニカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Purpuricenus temminckii</i>	○	-
スギカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Semanotus japonicus</i>	○	-

キイロメダカカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Stenomalus nagaoi</i>	○	-
マルクビケマダラカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Trichofenus campestris</i>	○	-
トラフカミキリ	コウチュウ目	カミキリムシ科	<i>Xylotrechus chinensis</i>	○	絶滅危惧 類
ウリハムシ	コウチュウ目	ハムシ科	<i>Aulacophora indica</i>	○	-
バラルリツツハムシ	コウチュウ目	ハムシ科	<i>Cryptocephalus approximatus</i>	○	-
キオビクビボソハムシ	コウチュウ目	ハムシ科	<i>Lema delicatula</i>	○	-
ヤマモハムシ	コウチュウ目	ハムシ科	<i>Lema honorata</i>	○	-
ウスモンカレキゾウムシ	コウチュウ目	ゾウムシ科	<i>Acicnemis palliata</i>	○	-
ハスジカツゾウムシ	コウチュウ目	ゾウムシ科	<i>Lixus acutipennis</i>	○	-
カツゾウムシ	コウチュウ目	ゾウムシ科	<i>Lixus impressiventris</i>	○	-
ヒゲジロキバチ	ハチ目	キバチ科	<i>Urocenus antennatus</i>	○	-
ニホンキバチ	ハチ目	キバチ科	<i>Urocenus japonicus</i>	○	-
ノコギリハリアリ	ハチ目	アリ科	<i>Amblyopone silvestrii</i>	○	-
カドフシアリ	ハチ目	アリ科	<i>Myrmecina nipponica</i>	○	-
ケブカアメイロアリ	ハチ目	アリ科	<i>Nyländeria amia</i>	○	-
コツノアリ	ハチ目	アリ科	<i>Orligomyrmex yamatonis</i>	○	-
イトウハリアリ	ハチ目	アリ科	<i>Proceratium itoi</i>	○	-
ワタセハリアリ	ハチ目	アリ科	<i>Proceratium watasei</i>	○	-
トカラウロコアリ	ハチ目	アリ科	<i>Trichoscapa membranifera</i>	○	-
オオハラナガツチバチ	ハチ目	ツチバチ科	<i>Megacampsomeris grossa</i>	○	-
シロオビハラナガツチバチ	ハチ目	ツチバチ科	<i>Megacampsomeris schulthessi</i>	○	-
キアシトックリバチ	ハチ目	コツチバチ科	<i>Eumenes rubrofemoratus</i>	○	-
ムモンホソアシナガバチ	ハチ目	スズメバチ科	<i>Parapolybia indica</i>	○	-
ナミカバフドロバチ	ハチ目	スズメバチ科	<i>Pararhynchium omatum</i>	○	-
キボシアシナガバチ	ハチ目	スズメバチ科	<i>Polistes nipponensis</i>	○	-
キアシナガバチ	ハチ目	スズメバチ科	<i>Polistes rothneyi iwatai</i>	○	-
フカイドロバチ	ハチ目	スズメバチ科	<i>Rhygchium haemorrhoidale fukaii</i>	○	-
チャイロスズメバチ	ハチ目	スズメバチ科	<i>Vespa dybowskii</i>	○	-
オオスズメバチ	ハチ目	スズメバチ科	<i>Vespa mandarina japonica</i>	○	-
キイロスズメバチ	ハチ目	スズメバチ科	<i>Vespa simillima xanthoptera</i>	○	-
クロスズメバチ	ハチ目	スズメバチ科	<i>Vespa flaviceps lewisii</i>	○	-
キボシトックリバチ	ハチ目	ドロバチ科	<i>Eumenes fraterculus</i>	○	-
フトカギチビドロバチ	ハチ目	ドロバチ科	<i>Stenodynerus clypeopicus</i>	○	-
サトセナガアナバチ	ハチ目	セナガアナバチ科	<i>Ampulex dissector</i>	○	-
マルモンツチスガリ	ハチ目	アナバチ科	<i>Cerceris japonica</i>	○	-
オオギングチバチ	ハチ目	アナバチ科	<i>Ectemnius konowii</i>	○	-
ミカドジガバチ	ハチ目	アナバチ科	<i>Hoplammophila aenulans</i>	○	-
ツヤビソ	ハチ目	アナバチ科	<i>Pison punctifrons</i>	○	-
キゴシジガバチ	ハチ目	アナバチ科	<i>Sceliphron madraspatanum kohli</i>	○	絶滅危惧 類
アカゴシクモバチ	ハチ目	クモバチ科	<i>Anoplius reflexus</i>	○	-
フタモンクモバチ	ハチ目	クモバチ科	<i>Parabatozonus jankowskii</i>	○	-
ヤマトハキリバチ	ハチ目	ハキリバチ科	<i>Megachile japonica</i>	○	-
ニホンミツバチ	ハチ目	ミツバチ科	<i>Apis cerana</i>	○	-
コマルハナバチ	ハチ目	ミツバチ科	<i>Bombus ardens</i>	○	-
クマルハナバチ	ハチ目	ミツバチ科	<i>Bombus ignitus</i>	○	情報不足
ゴキブリヤセバチ	ハチ目	ヤセバチ科	<i>Evania appendigaster</i>	○	-
アオバセセリ	チョウ目	セセリチョウ科	<i>Choaspes benjaminii japonicus</i>	○	準絶滅危惧
オオチャバネセセリ	チョウ目	ヒゲナガガガ科	<i>Polytremsis pellucida pellucida</i>	○	準絶滅危惧
キマダラセセリ	チョウ目	ヒゲナガガガ科	<i>Potanthus flavus flavus</i>	○	-
カラスアゲハ日本本土・朝鮮半島亜種	チョウ目	ヒロズコガ科	<i>Papilio dehaanii dehaanii</i>	○	-
モンキアゲハ	チョウ目	ヒロズコガ科	<i>Papilio helenus nicconicolens</i>	○	-
オオミノガ	チョウ目	ミノガ科	<i>Eumeta variegata</i>	○	-
ツマグロキチョウ	チョウ目	ミノガ科	<i>Eurema laeta thesesaba</i>	○	絶滅危惧 類
スジグロシロチョウ	チョウ目	シロチョウ科	<i>Pieris melete</i>	○	-
トラフシジミ	チョウ目	シジミチョウ科	<i>Rapara arata</i>	○	-
コムラサキ	チョウ目	シジミチョウ科	<i>Apatura metis substituta</i>	○	-
ルリタテ八日本本土亜種	チョウ目	シジミチョウ科	<i>Kaniska canace nojaponicum</i>	○	-
ヒメジャノメ	チョウ目	タテハチョウ科	<i>Mycalasis gotama fulginea</i>	○	-
サトキマダラヒカゲ	チョウ目	タテハチョウ科	<i>Neope goschkevitchii</i>	○	-
コムシ本州以南亜種	チョウ目	タテハチョウ科	<i>Neptis sappho intermedia</i>	○	-
ヒオドシチョウ	チョウ目	タテハチョウ科	<i>Nymphalis xanthomelas japonica</i>	○	-
キタテハ	チョウ目	タテハチョウ科	<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>	○	-
アカタテハ	チョウ目	タテハチョウ科	<i>Vanessa indica indica</i>	○	-
ヒメウラナミジャノメ	チョウ目	スガ科	<i>Ypthima argus argus</i>	○	-
オオモボトスカシバ本土亜種	チョウ目	スカシバガ科	<i>Melittha sangaiica nipponica</i>	○	-

コスカシバ	チョウ目	スカシバガ科	<i>Synanthedon hector</i>	○	-
カシコスカシバ	チョウ目	スカシバガ科	<i>Synanthedon quercus</i>	○	-
ハチノスツツリガ	チョウ目	メイガ科	<i>Galleria mellonella</i>	○	-
マダラミズメイガ本州以南亜種	チョウ目	メイガ科	<i>Elophila interruptalis interruptalis</i>	○	-
ヒメマダラミズメイガ	チョウ目	メイガ科	<i>Elophila turbata</i>	○	-
シロオビフユシャク	チョウ目	シャクガ科	<i>Alsophila japonensis</i>	○	-
ウスバフユシャク	チョウ目	シャクガ科	<i>Inurois fletcheri</i>	○	-
ホソウスバフユシャク	チョウ目	シャクガ科	<i>Inurois tenuis</i>	○	-
マツカレハ	チョウ目	シャクガ科	<i>Dendrolimus spectabilis</i>	○	-
クヌギカレハ屋久島以北亜種	チョウ目	カレハガ科	<i>Kunugia undans flaveola</i>	○	-
ヤママコ屋久島以北亜種	チョウ目	カレハガ科	<i>Antheraea yamamai yamamai</i>	○	-
シンジュサン対馬以外亜種	チョウ目	ヤママコガ科	<i>Samia cynthia pryeri</i>	○	-
ベニスズメ	チョウ目	スズメガ科	<i>Deilephila elpenor</i>	○	-
オオシモフリスズメ	チョウ目	スズメガ科	<i>Langia zenzeroides</i>	○	準絶滅危惧
ヒメクロホウジャク	チョウ目	スズメガ科	<i>Macroglossum bombylans</i>	○	-
クロホウジャク	チョウ目	スズメガ科	<i>Macroglossum saga</i>	○	-
クチバズメ	チョウ目	スズメガ科	<i>Manumba sperchius</i>	○	-
スゲドクガ	チョウ目	ドクガ科	<i>Laelia coenosa</i>	○	準絶滅危惧
スゲオオドクガ	チョウ目	ドクガ科	<i>Laelia gigantea</i>	○	-
ブチヒゲヤナギドクガ	チョウ目	ドクガ科	<i>Leucoma candida</i>	○	絶滅危惧 類
カノコガ	チョウ目	ドクガ科	<i>Amata fortunei</i>	○	-
ウスアオリング	チョウ目	コブガ科	<i>Paracrana angulata</i>	○	準絶滅危惧
ガマヨトウ	チョウ目	ホソガ科	<i>Capsula aerata</i>	○	準絶滅危惧
オオトモエ	チョウ目	ホソガ科	<i>Erebus ephesperis</i>	○	-
ヒメアケビコノハ	チョウ目	ホソガ科	<i>Eudocima phalonia</i>	○	-
アケビコノハ	チョウ目	ホソガ科	<i>Eudocima tyrannus</i>	○	-
ハグルマトモエ	チョウ目	ヤガ科	<i>Spirax helicina</i>	○	-
ムクゲコノハ	チョウ目	ヤガ科	<i>Thyas juno</i>	○	-
クスサン屋久島以北亜種	チョウ目	ヤガ科	<i>Saturnia japonica</i>	○	-

注1：市内にかつて生息・生育していた記録が残っているが、最後に確認されてから長い時間が経過しているため、市内ではすでに絶滅したと考えられる種。

クモ類

大阪市内では97種のクモ類が確認されています。このうち、外来種は3種、在来種は94種で、この在来種のうち6種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この6種のうち、ジグモやワスレナグモなど林床に生息するものは減少傾向にあり、公園などでわずかに見られる程度です。また、コガネグモも、餌としている大型の昆虫が減少していることから、あまり見られなくなりました。ヒトエグモは、上町台地の古い家屋内やその周辺でのみ見られますが、古い建造物の取り壊し・改築により減少していると考えられています。

和名	目名	科名	学名	大阪市内の保護上 注目すべき生物	(参考)大阪府レッ ドリフト2014
ジグモ	クモ目	ジグモ科	<i>Atypus karschi</i>	○	-
ワスレナグモ	クモ目	ジグモ科	<i>Calommata signata</i>	○	-
コガネグモ	クモ目	コガネグモ科	<i>Argiope amoena</i>	○	-
ゲホウグモ	クモ目	コガネグモ科	<i>Polys illepidus</i>	○	-
ヒノマルコモリグモ	クモ目	コモリグモ科	<i>Arctosa ipsa</i>	○	-
ヒトエグモ	クモ目	ヒトエグモ科	<i>Plator nipponicus</i>	○	準絶滅危惧

陸産貝類（生息情報が少ないため、「保護上注目すべき生き物」を選定せず）

大阪市内では27種の陸産貝類が確認されています。大阪市内では、市街化の進行により乾燥が進んだため、陸産貝類の大半は乾燥に適応した種です。それでもなお、社寺林等では林床に生息する種がみられます。

和名	目名	科名	学名	大阪市内の保護上 注目すべき生物	(参考)大阪府レ ッドリスト 2014
ナガオカモノアラ ガイ	柄眼目	オカモノアラガイ科	<i>Oxyloma hirasei</i>	-	準絶滅危惧

淡水産貝類

大阪市内では 22 種の淡水産貝類が確認されています。このうち、外来種は 6 種、在来種は 16 種で、この在来種のうち 10 種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この 10 種のうち、すでに絶滅したと考えられているのはナカセコカワニナの 1 種で、現在生息している在来種は、豊かな生物多様性が維持されている淀川ワンド群などで生息していますが、近年、淀川ではヌートリアの淡水産二枚貝に対する食害が拡大しています。特にイシガイなどはイタセンパラを始めとするタナゴ類の産卵母貝でもあることから、その影響が懸念されます。

和名	目名	科名	学名	大阪市内の保護 上重要な生物	(参考)大阪府レ ッドリスト 2014
マメタニシ	原始紐舌目	マメタニシ科	<i>Parafossaridus manchouricus japonicus</i>	○	絶滅危惧 類
ハベカワニナ	盤足目	カワニナ科	<i>Semisulcospira (Bivamelania) habeii</i>	○	準絶滅危惧
イボカワニナ	盤足目	カワニナ科	<i>BiSemisulcospira (Bivamelania) multigranosa</i>	○	絶滅危惧 類
ナカセコカワニナ	盤足目	カワニナ科	<i>Semisulcospira (Bivamelania) nakasekoeae</i>	○	絶滅
クロダカワニナ	盤足目	カワニナ科	<i>Semisulcospira kurodai</i>	○	絶滅危惧 類
ヌマガイ	イシガイ目	イシガイ科	<i>Sinanodonta lauta</i>	○	絶滅危惧 類
マツカサガイ	イシガイ目	マツカサガイ科	<i>Pronodularia japonensis</i>	○	絶滅危惧 類
トンガリササノハガイ	イシガイ目	マツカサガイ科	<i>Lanceolaria grayana</i>	○	絶滅危惧 類
イシガイ	イシガイ目	マツカサガイ科	<i>Nodularia douglasiae nipponensis</i>	○	準絶滅危惧
マシジミ	マルスダレガイ目	シジミ科	<i>Corbicula leana</i>	○	絶滅危惧 類

海生生物

大阪市内では 231 種の海生生物が確認されています。このうち、外来種は 17 種、在来種は 214 種で、この在来種のうち 30 種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。大阪市内の干潟は埋め立てなどにより減少したものの、現在、淀川河口には安定な汽水域や干潟が形成されており、これらの海生生物にとって重要なすみかとなっています。また、野鳥園臨港緑地の造成干潟では、淀川河口では記録されてこなかった底生生物が多数見つかり、これらの生息環境の創出に大きな役割を果たしています。

なお、市内の港湾には船舶が頻繁に入港し、また人工護岸も多いことから、外来種は増加傾向にあります。

和名	門名	綱名	目名	科名	学名	大阪市内の保護 上重要な生物	(参考)大阪府 レッドリスト 2014
イシワケイソギンチャク	刺胞動物 門	花虫綱	イソギンチャ ク目	ウメボシイソギンチャ ク科	<i>Gyactis japonica</i>	-	情報不足
小型大平肺吸虫	扁形動物 門	吸虫綱	肺吸虫目	肺吸虫科	<i>Paragonimus iloktsuenensis</i>	-	情報不足
ヒロクチカノコ	軟体動物 門	腹足綱	アマオブネガ イ目	アマオブネガイ科	<i>Neripteron. sp.</i>	○	絶滅
ヒナユキスズメ	軟体動物 門	腹足綱	アマオブネガ イ目	ユキスズメガイ科	<i>Phenacolepas sp.</i>	○	絶滅危惧 類
フトヘナタリ	軟体動物 門	腹足綱	新生腹足目	キバウミナ科	<i>Cerithidea moerchii</i>	○	準絶滅危惧
カワグチツボ	軟体動物 門	腹足綱	新生腹足目	ワカウツボ科	<i>Fluviocingula elegantula</i>	○	準絶滅危惧
カワザンショウ	軟体動物 門	腹足綱	新生腹足目	カワザンショウガイ科	<i>Assiminea japonica</i>	○	準絶滅危惧
クリイロカワザンショウ	軟体動物 門	腹足綱	新生腹足目	カワザンショウガイ科	<i>Angustassiminea castanea</i>	-	準絶滅危惧
ヒナタムシャドリカワザン ショウ	軟体動物 門	腹足綱	新生腹足目	カワザンショウガイ科	<i>Assiminea aff. parasitologica Kuroda, 1958</i>	○	絶滅危惧 類

エドガワミズゴマツボ	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	ミズゴマツボ科	<i>Stenothyra edogawensis</i>	○	準絶滅危惧
ミズゴマツボ	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	ミズゴマツボ科	<i>Stenothyra japonica</i>	○	絶滅危惧 類
クレハガイ	軟体動物門	腹足綱	汎有肺目	イトカケガイ科	<i>Epitonium clementinum</i>	-	準絶滅危惧
クサズリクチキレ	軟体動物門	腹足綱	汎有肺目	トウガタガイ科	<i>Babellia caelator</i>	-	準絶滅危惧
ヨコイトカケギリ	軟体動物門	腹足綱	汎有肺目	トウガタガイ科	<i>Cingulina circinata</i>	-	情報不足
ヨコスジギリ	軟体動物門	腹足綱	汎有肺目	トウガタガイ科	<i>Parthenina affectuosa</i>	-	準絶滅危惧
ナギサノシタタリ	軟体動物門	腹足綱	汎有肺目	オカミミガイ科	<i>Microtaralia alba</i>	○	絶滅危惧 類
ウスコミミガイ	軟体動物門	腹足綱	汎有肺目	オカミミガイ科	<i>Laemodonta exaratoides</i>	○	絶滅危惧 類
イタボガキ	軟体動物門	二枚貝綱	ウグイスガイ目	イタボガキ科	<i>Ostrea densamellosa</i>	○	情報不足
チリハギガイ	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	チリハギガイ科	<i>Coeccella chinensis</i>	-	準絶滅危惧
ヤマトシジミ	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	<i>Corbicula japonica</i>	○	準絶滅危惧
イソシジミ	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シオサザナミガイ科	<i>Nuttalia japonica</i>	○	情報不足
ハマグリ	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	<i>Meretrix lusoria</i>	○	絶滅
ムラサキガイ	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シオサザナミガイ科	<i>Soletellina diphos</i>	○	絶滅危惧 類
オオノガイ	軟体動物門	二枚貝綱	オオノガイ目	オオノガイ科	<i>Mya arenaria oonogai</i>	○	絶滅危惧 類
ソトオリガイ	軟体動物門	二枚貝綱	異刺帯目	オキナガイ科	<i>Latemula marlina</i>	-	準絶滅危惧
ヒメヤマトカワゴカイ	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	ゴカイ科	<i>Hediste atoka</i>	-	情報不足
ヤマトカワゴカイ	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	ゴカイ科	<i>Hediste diadroma</i>	-	情報不足
ウチワゴカイ	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	ゴカイ科	<i>Nectoneanthes uchiwa</i>	-	絶滅危惧 類
ヒトツブゴカイ	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	ゴカイ科	<i>Perinereis cultrifera floridana</i>	-	準絶滅危惧
カキモトシリス	環形動物門	多毛綱	サンバゴカイ目	シリス科	<i>Myrionida pachycera</i>	-	絶滅危惧 類
ニッポンフサゴカイ	環形動物門	多毛綱	フサゴカイ目	フサゴカイ科	<i>Thelepus cf. setosus</i>	-	準絶滅危惧
タマシキゴカイ	環形動物門	多毛綱	イトゴカイ目	タマシキゴカイ科	<i>Arenicola brasiliensis</i>	○	準絶滅危惧
イソタマシキゴカイ	環形動物門	多毛綱	イトゴカイ目	タマシキゴカイ科	<i>Abarenicola pacifica</i>	-	情報不足
クロイサザアミ	節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	<i>Neomysis awatschensis</i>	-	情報不足
ニホンイサザアミ	節足動物門	軟甲綱	アミ目	アミ科	<i>Neomysis japonica</i>	-	情報不足
オオサカドロソコエビ	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ウンボソコエビ科	<i>Grandidierella osakaensis</i>	○	絶滅危惧 類
ニホンドロクダムシ	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	<i>Sinocorophium japonicum</i>	○	準絶滅危惧
タイリクドロクダムシ	節足動物門	軟甲綱	端脚目	ドロクダムシ科	<i>Sinocorophium sinensis</i>	-	情報不足
コウベウミナナフシ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	ウミナナフシ科	<i>Paranithura kobensis</i>	-	情報不足
ヒメコツブムシ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Gnorimosphaeroma pulchellum</i>	○	絶滅危惧 類
トンダガワイソコツブムシ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Gnorimosphaeroma tondaense</i>	-	情報不足
ナナツバコツブムシ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Sphaeroma sieboldii</i>	-	情報不足
ハナオカカギゴカイ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	カギゴカイ科	<i>Sigambra hanaokai</i>	-	情報不足
カサネシリス	節足動物門	軟甲綱	等脚目	シリス科	<i>Amblyosyllis speciosa</i>	-	情報不足
ヨツバコツブムシ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	コツブムシ科	<i>Sphaeroma retrolaevis</i>	○	準絶滅危惧
ヒガタスナホリムシ	節足動物門	軟甲綱	等脚目	スナホリムシ科	<i>Eurydice akiyamai</i>	○	絶滅危惧 類
ハサミシャコエビ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ハサミシャコエビ科	<i>Laomedea astacina</i>	-	準絶滅危惧
スナガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	スナガニ科	<i>Ocyropsis stimpsoni</i>	○	準絶滅危惧
チゴガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	<i>Ilyoplax pusilla</i>	-	絶滅危惧 類
コメツキガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	コメツキガニ科	<i>Scopimera globosa</i>	-	準絶滅危惧
ヤマトオサガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	<i>Macrophthalmus japonicus</i>	○	-
オサガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	オサガニ科	<i>Macrophthalmus abbreviatus</i>	-	準絶滅危惧
ユビアカベンケイガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	<i>Pansesarma tripectinis</i>	○	準絶滅危惧
フジテガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	ベンケイガニ科	<i>Clistocaeloma villosum</i>	○	準絶滅危惧
ヒメケフサイソガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスズガニ科	<i>Hemigrapsus sinensis</i>	○	絶滅危惧 類
ヒメアシハラガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスズガニ科	<i>Helice japonica</i>	○	準絶滅危惧
オオヒライソガニ	節足動物門	軟甲綱	十脚目	モクスズガニ科	<i>Varuna litterata</i>	-	準絶滅危惧
ヒモイカリナマコ	棘皮動物門	ナマコ綱	無足目	イカリナマコ科	<i>Patinapia ooplax</i>	-	準絶滅危惧
マキヒトエグサ	緑色植物門	アオサ藻綱	ヒビミドロ目	マキヒトエグサ科	<i>Gayralia oxyspermum</i>	○	準絶滅危惧
ホソアヤギス	紅色植物門	紅藻綱	イギス目	コノハノリ科	<i>Caloglossa ogasawaraensis</i>	○	準絶滅危惧

その他淡水産無脊椎動物（生息情報が少ないため、「保護上注目すべき生き物」を選定せず）

大阪市内では水田が減少しており、淡水性種の主な生息環境は淀川・大和川といった大きな河川と都市公園の池に限られます。都市公園ではスジエビやテナガエビなどの在来種も見られますが、外来種も多く、アメリカザリガニなど生態系への影響が大きい種も生息しています。また、ミナミヌマエビ属で知られているような、在来種と形態による識別が困難な外来種も侵入している可能性があります。

維管束植物

大阪市内では、花壇などの植栽を除き、1,488種の維管束植物が確認されています。このうち外来種は844種、在来種は644種で、この在来種のうち163種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この中には、ムサシモなどすでに絶滅した7種や、大阪府レッドリスト2014でも絶滅危惧Ⅰ類に指定されているヒキノカサやワンドスゲの他、水田周辺や河口干潟に生育する多くの植物が含まれています。かつては、淀川水系のヨシ等の低湿地環境に生育する植物が広く分布していたと考えられますが、現在の重要な生育場所としては、大和川堤防、淀川堤防、住吉大社（御神殿を含む）などの各地の社寺林、上町台地の斜面林、上町台地西側湿地、野鳥園臨港緑地や淀川河口の塩湿地などがあげられます。

和名	科名	学名	大阪市内の保護 上重要な生物	(参考)大阪府レ ッドリスト2014
ハマハナヤスリ	ハナヤスリ科	<i>Ophioglossum thermale</i> Kom.	-	絶滅危惧 類
マツバラン	マツバラン科	<i>Psilohum nudum</i> (L.) P.Beauv.	-	絶滅危惧 類
デンジソウ	デンジソウ科	<i>Marsilea quadrifolia</i> L.	-	絶滅危惧 類
ミズワラビ	イノモトソウ科	<i>Ceratopteris thalictroides</i> (L.) Brongn.	○	-
サンショウモ	サンショウモ科	<i>Salvinia natans</i> (L.) All.	-	絶滅危惧 類
オオアカウクサ	サンショウモ科	<i>Azolla japonica</i> (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai	-	絶滅
ヒツジグサ	スイレン科	<i>Nymphaea tetragona</i> Georgi	-	準絶滅危惧
コウヤマキ	コウヤマキ科	<i>Sciadopitys verticillata</i> (Thunb.) Siebold et Zucc.	-	情報不足
コウホネ	スイレン科	<i>Nuphar japonica</i> DC.	-	絶滅危惧 類
ハンゲショウ	ドクダミ科	<i>Saururus chinensis</i> (Lour.) Baill.	○	準絶滅危惧
ウマノスズクサ	ウマノスズクサ科	<i>Aristolochia debilis</i> Siebold et Zucc.	○	-
カラスビシャク	サトイモ科	<i>Pinellia temata</i> (Thunb.) Breitenb.	○	-
オモダカ	オモダカ科	<i>Sagittaria trifolia</i> L.	○	-
クロモ	トチカガミ科	<i>Hydrilla verticillata</i> (L.f.) Royle	○	-
トチカガミ	トチカガミ科	<i>Hydrocharis dubia</i> (Blume) Backer	○	絶滅危惧 類
ムサシモ	トチカガミ科	<i>Najas ancistrocarpa</i> A.Braun ex Magnus	絶滅(注1)	絶滅
イトトリゲモ	トチカガミ科	<i>Najas gracillima</i> (A.Braun ex Engelm.) Magnus	○	絶滅危惧 類
ホッスモ	トチカガミ科	<i>Najas graminea</i> Delile	○	-
トリゲモ	トチカガミ科	<i>Najas minor</i> All.	○	情報不足
ミズオオバコ	トチカガミ科	<i>Ottelia alismoides</i> (L.) Pers.	○	準絶滅危惧
コウガイモ	トチカガミ科	<i>Vallisneria denseserrulata</i> (Makino) Makino	○	準絶滅危惧
セキショウモ	トチカガミ科	<i>Vallisneria natans</i> (Lour.) H.Hara	-	絶滅
イトモ	ヒルムシロ科	<i>Potamogeton bertholdii</i> Fieber	○	絶滅危惧 類
センニンモ	ヒルムシロ科	<i>Potamogeton maackianus</i> A.Benn.	○	準絶滅危惧
ホンバミズヒキモ	ヒルムシロ科	<i>Potamogeton octandrus</i> Poir. var. <i>octandrus</i>	○	-
ササバモ	ヒルムシロ科	<i>Potamogeton wrightii</i> Morong	○	準絶滅危惧
イトクズモ	ヒルムシロ科	<i>Zannichellia palustris</i> L.	絶滅(注1)	絶滅
カワツルモ	カワツルモ科	<i>Ruppia maritima</i> L.	絶滅(注1)	絶滅
ソクシンラン	キンコウカ科	<i>Aletis spicata</i> (Thunb.) Franch.	○	-
シラン	ラン科	<i>Bletilla striata</i> (Thunb.) Rehb.f.	-	絶滅危惧 類
ヒオウギ	アヤメ科	<i>Iris domestica</i> (L.) Goldblatt et Mabb.	-	絶滅危惧 類
ノカンゾウ	ススキノキ科	<i>Hemerocallis fulva</i> L. var. <i>disticha</i> (Donn ex Ker Gawl.) M.Hotta	-	絶滅危惧 類
ツルボ	キジカクシ科	<i>Bamardia japonica</i> (Thunb.) Schult. et Schult.f.	○	-
ヒメヤブラン	キジカクシ科	<i>Liriope minor</i> (Maxim.) Makino	○	-
ヤブラン	キジカクシ科	<i>Liriope muscari</i> (Decne.) L.H.Bailey	○	-
ノシラン	キジカクシ科	<i>Ophiopogon japonicus</i> (Siebold) Lodd.	○	情報不足
ナガバジャノヒゲ	キジカクシ科	<i>Ophiopogon japonicus</i> (Thunb.) Ker Gawl. var. <i>umbrosus</i> Maxim.	○	-
イボクサ	ツユクサ科	<i>Murdannia keisak</i> (Hassk.) Hand.-Mazz.	○	-
ミズアオイ	ミズアオイ科	<i>Monochoria korsakowii</i> Regel et Maack	○	絶滅危惧 類
ガマ	ガマ科	<i>Typha latifolia</i> L.	○	-
コガマ	ガマ科	<i>Typha orientalis</i> C.Presl	○	準絶滅危惧
ハナビゼキショウ	イグサ科	<i>Juncus alatus</i> Franch. et Sav.	○	-
イグサ	イグサ科	<i>Juncus decipiens</i> (Buchenau) Nakai	○	-
ヒロハノコウガイゼキショウ	イグサ科	<i>Juncus diastrophanthus</i> Buchenau	○	-
コウガイゼキショウ	イグサ科	<i>Juncus prismatocarpus</i> R.Br. subsp. <i>leschenaultii</i> (J.Gay ex Lahaye) Kirschner	○	-
ホソイ	イグサ科	<i>Juncus setchuensis</i> Buchenau var. <i>effusoides</i> Buchenau	○	-

ウキヤガラ	カヤツリグサ科	<i>Bolboschoenus fluviatilis</i> (Torr.) Soják subsp. <i>yagara</i> (Ohwi) T.Koyama	○	-
コウキヤガラ	カヤツリグサ科	<i>Bolboschoenus koshevníkovi</i> (Litv. ex Zinger) A.E.Kozhev. n.	○	-
イトハナビテンツキ	カヤツリグサ科	<i>Bulbosylis densa</i> (Wall.) Hand.-Mazz.	○	-
ワンドスゲ	カヤツリグサ科	<i>Carex argyi</i> H.Lév. et Vaniot	○	絶滅危惧 類
カサスゲ	カヤツリグサ科	<i>Carex dispalata</i> Boott	○	-
コウボウムギ	カヤツリグサ科	<i>Carex kobomugi</i> Ohwi	○	絶滅危惧 類
ヤガミスゲ	カヤツリグサ科	<i>Carex muackii</i> Maxim.	○	準絶滅危惧
ピロードスゲ	カヤツリグサ科	<i>Carex miyabei</i> Franch.	○	準絶滅危惧
ミコシガヤ	カヤツリグサ科	<i>Carex neurocarpa</i> Maxim.	○	準絶滅危惧
アゼスゲ	カヤツリグサ科	<i>Carex thunbergii</i> Steud.	○	-
ヒトモトススキ	カヤツリグサ科	<i>Cladium jamaicense</i> Crantz subs p. <i>chinense</i> (Nees) T.Koyama	-	絶滅危惧 類
アイダクグ	カヤツリグサ科	<i>Cyperus brevifolius</i> (Rottb.) Hassk. var. <i>brevifolius</i>	○	-
タマガヤツリ	カヤツリグサ科	<i>Cyperus difformis</i> L.	○	-
ヒナガヤツリ	カヤツリグサ科	<i>Cyperus flaccidus</i> R.Br.	○	-
アオガヤツリ	カヤツリグサ科	<i>Cyperus nipponicus</i> Franch. et Sav.	○	-
オオシロガヤツリ	カヤツリグサ科	<i>Cyperus nipponicus</i> Franch. et Sav. var. <i>spiralis</i> Ohwi	○	準絶滅危惧
ミズガヤツリ	カヤツリグサ科	<i>Cyperus serotinus</i> Rottb.	○	-
シカクイ	カヤツリグサ科	<i>Eleocharis wichuræ</i> Boeck.	○	-
ヒメヒラテンツキ	カヤツリグサ科	<i>Finbristylis autumnalis</i> (L.) Roem. et Schult.	○	-
ヒデリコ	カヤツリグサ科	<i>Finbristylis littoralis</i> Gaudich.	○	-
イソヤマテンツキ	カヤツリグサ科	<i>Finbristylis sieboldii</i> Miq. ex Franch. et Sav.	○	-
ヤマイ	カヤツリグサ科	<i>Finbristylis subbispicata</i> Nees et Meyen	○	-
メアゼテンツキ	カヤツリグサ科	<i>Finbristylis velata</i> R.Br.	○	-
ヒンジガヤツリ	カヤツリグサ科	<i>Lipocarpa microcephala</i> (R.Br.) Kunth	○	-
ホタルイ	カヤツリグサ科	<i>Schoenoplectiella hotani</i> (Ohwi) J.D.Jung et H.K.Choi	○	-
イヌホタルイ	カヤツリグサ科	<i>Schoenoplectiella juncoides</i> (Roxb.) Lye	○	-
フトイ	カヤツリグサ科	<i>Schoenoplectus tabernaemontani</i> (C.C.Gmel.) Palla	○	絶滅危惧 類
サンカクイ	カヤツリグサ科	<i>Schoenoplectus triquetus</i> (L.) Palla	○	-
マツカサススキ	カヤツリグサ科	<i>Scirpus mitsukurianus</i> Makino	○	絶滅危惧 類
コウボウ	イネ科	<i>Anthoxanthum niensis</i> (Weber) Y.Schouten et Veldkamp var. <i>sachalinense</i> (Printz) Yonek.	○	-
コブナグサ	イネ科	<i>Arthraxon hispidus</i> (Thunb.) Makino	○	-
ヤマアワ	イネ科	<i>Calamagrostis epigeios</i> (L.) Roth	○	-
オガルカヤ	イネ科	<i>Cynbopogon tortilis</i> (J.Presl) A.Camus var. <i>goeringii</i> (Steud.) Hand.-Mazz.	○	-
タイヌビエ	イネ科	<i>Echinochloa oryzicola</i> (Vasing.) Vasing.	○	-
コゴメカゼクサ	イネ科	<i>Eragrostis japonica</i> (Thunb.) Trin.	-	絶滅危惧 類
ムツオレグサ	イネ科	<i>Glyceria acutiflora</i> Torr. subsp. <i>japonica</i> (Steud.) T.Koyama et Kawano	○	-
ヒロハノドジョウツナギ	イネ科	<i>Glyceria leptolepis</i> Ohwi	○	-
ウシノシツペイ	イネ科	<i>Hemanthria sibirica</i> (Gandog.) Ohwi	○	-
チゴザサ	イネ科	<i>Isachne globosa</i> (Thunb.) Kuntze	○	-
ハイチゴザサ	イネ科	<i>Isachne nipponensis</i> Ohwi	○	-
カモノハシ	イネ科	<i>Ischaemum aristatum</i> L. var. <i>crassipes</i> (Steud.) Yonek.	○	-
ミノボロ	イネ科	<i>Koeleria macrantha</i> (Ledeb.) Schult. et Schult.f.	○	絶滅危惧 類
アシカキ	イネ科	<i>Leersia japonica</i> (Honda) Makino ex Honda	○	-
チャボチヂミザサ	イネ科	<i>Oplismenus undulatifolius</i> (Ard.) Roem. et Schult. var. <i>microphyllus</i> (Honda) Ohwi	-	準絶滅危惧
アイアシ	イネ科	<i>Phacellurus latifolius</i> (Steud.) Ohwi	絶滅(注1)	準絶滅危惧
ツルヨシ	イネ科	<i>Phragmites japonicus</i> Steud.	○	-
ハマヒエガエリ	イネ科	<i>Polypogon monspeliensis</i> (L.) Desf.	○	-
ウシクサ	イネ科	<i>Schizachyrium brevifolium</i> (Sw.) Nees ex Büse	○	絶滅危惧 類
ヒゲシバ	イネ科	<i>Sporobolus japonicus</i> (Steud.) Maxim. ex Rendle	絶滅(注1)	絶滅
マコモ	イネ科	<i>Zizania latifolia</i> (Griseb.) Turcz. ex Stapf	○	-
マツモ	マツモ科	<i>Ceratophyllum demersum</i> L.	○	-
メギ	メギ科	<i>Berberis thunbergii</i> DC.	-	準絶滅危惧
ウマノアシガタ	キンポウゲ科	<i>Ranunculus japonicus</i> Thunb.	○	-
キツネノボタン	キンポウゲ科	<i>Ranunculus sibirifolius</i> H.Lév. var. <i>glaber</i> (H.Boissieu) Tamura	○	-
ヒキノカサ	キンポウゲ科	<i>Ranunculus tematus</i> Thunb.	○	絶滅危惧 類
ツゲ	ツゲ科	<i>Buxus microphylla</i> Siebold et Zucc. var. <i>japonica</i> (Müll.Arg. ex Miq.) Rehder et E.H.Wilson	-	準絶滅危惧
タコノアシ	タコノアシ科	<i>Penthorum chinense</i> Push	○	準絶滅危惧
ハマエンドウ	マメ科	<i>Lathyrus japonicus</i> Willd.	○	準絶滅危惧
ツルフジバカマ	マメ科	<i>Vicia amoena</i> Fisch. ex Ser.	-	絶滅危惧 類
オオバクサフジ	マメ科	<i>Vicia pseudo-orobus</i> Fisch. et C.A.Mey.	-	絶滅危惧 類
モモ	バラ科	<i>Amygdalus persica</i> L.	-	絶滅危惧 類
ツチグリ	バラ科	<i>Potentilla discolor</i> Bunge	-	絶滅
シモツケ	バラ科	<i>Spiraea japonica</i> L.f.	-	情報不足
ユキヤナギ	バラ科	<i>Spiraea thunbergii</i> Siebold ex Blume	-	絶滅危惧 類

ハルニレ	ニレ科	<i>Ulmus davidiana</i> Planch. var. <i>japonica</i> (Rehder) Nakai	-	絶滅
カシワ	ブナ科	<i>Quercus dentata</i> Thunb.	-	準絶滅危惧
オニグルミ	クルミ科	<i>Juglans mandshurica</i> Maxim. var. <i>sachalinensis</i> (Komatsu) Kitam.	○	-
ゴキツル	ウリ科	<i>Actinostemma tenerum</i> Griff.	○	-
カラスウリ	ウリ科	<i>Trichosanthes cucumeroides</i> (Ser.) Maxim. ex Franch. et Sav.	○	-
スズメウリ	ウリ科	<i>Zehneria japonica</i> (Thunb.) H.Y.Liu	○	-
コゴメヤナギ	ヤナギ科	<i>Salix dolichostyla</i> Seemen subsp. <i>serissifolia</i> (Kimura) H. Ohashi et H. Nakai	○	-
カワヤナギ	ヤナギ科	<i>Salix miyabeana</i> Seemen subsp. <i>gymnolepis</i> (H. Lévl. et Vaniot) H. Ohashi et Yonek.	○	-
オオタチヤナギ	ヤナギ科	<i>Salix pierotii</i> Miq.	○	-
タチヤナギ	ヤナギ科	<i>Salix triandra</i> L. subsp. <i>nipponica</i> (Franch. et Sav.) A. K. Skvortsov	○	-
ヒゴスミレ	スミレ科	<i>Viola chaerophylloides</i> (Regel) W. Becker var. <i>sieboldiana</i> (Maxim.) Makino	-	絶滅危惧 類
タチツボスミレ	スミレ科	<i>Viola grypoceras</i> A. Gray var. <i>grypoceras</i>	○	-
ヒメミノハギ	ミソハギ科	<i>Annamia multiflora</i> Roxb.	○	準絶滅危惧
ミズマツバ	ミソハギ科	<i>Rotala mexicana</i> Cham. et Schldl.	○	準絶滅危惧
ヒシ	ミソハギ科	<i>Trapa japonica</i> Flerow	○	-
オニビシ	ミソハギ科	<i>Trapa natans</i> L.	○	-
ハマボウ	アオイ科	<i>Hibiscus hamabo</i> Siebold et Zucc.	-	絶滅
ミズタマソウ	アカバナ科	<i>Circaea mollis</i> Siebold et Zucc.	○	-
チョウジタデ	アカバナ科	<i>Ludwigia epilobioides</i> Maxim. subsp. <i>epilobioides</i>	○	-
コイヌガラシ	アブラナ科	<i>Rorippa cantoniensis</i> (Lour.) Ohwi	○	準絶滅危惧
スカシタゴボウ	アブラナ科	<i>Rorippa palustris</i> (L.) Besser	○	-
ホソバイスタデ	タデ科	<i>Persicaria erectominor</i> (Makino) Nakai var. <i>trigonocarpa</i> (Makino) H. Hara	○	絶滅危惧 類
ナガバノウナギツカミ	タデ科	<i>Persicaria hastatosagittata</i> (Makino) Nakai	○	絶滅危惧 類
シロバナサクラタデ	タデ科	<i>Persicaria japonica</i> (Meisn.) Nakai ex Ohki	○	-
サデクサ	タデ科	<i>Persicaria maackiana</i> (Regel) Nakai	○	準絶滅危惧
ハルタデ	タデ科	<i>Persicaria maculosa</i> Gray subsp. <i>hirticaulis</i> (Danser) S. Ekman et T. Knutsson var. <i>pubescens</i> (Makino) Yonek.	○	-
サクラタデ	タデ科	<i>Persicaria odorata</i> (Lour.) Soják subsp. <i>conspicua</i> (Nakai) Yonek.	○	-
ボントクタデ	タデ科	<i>Persicaria pubescens</i> (Blume) H. Hara	○	-
ウナギツカミ	タデ科	<i>Persicaria sagittata</i> (L.) H. Gross var. <i>sibirica</i> (Meisn.) Miyabe	○	-
ヌカボタデ	タデ科	<i>Persicaria taquetii</i> (H. Lévl.) Koidz.	○	絶滅危惧 類
アキノミチヤナギ	タデ科	<i>Polygonum polyneuron</i> Franch. et Sav.	○	-
コギシギシ	タデ科	<i>Rumex dentatus</i> L. subsp. <i>klotzschianus</i> (Meisn.) Rech. f.	○	準絶滅危惧
ギシギシ	タデ科	<i>Rumex japonicus</i> Houtt.	○	-
イシモチソウ	モウセンゴケ科	<i>Drosera peltata</i> Thunb. var. <i>nipponica</i> (Masam.) Ohwi	-	絶滅危惧 類
ツメクサ	ナデシコ科	<i>Sagina japonica</i> (Sw.) Ohwi	○	-
ノミノフスマ	ナデシコ科	<i>Stellaria uliginosa</i> Murray var. <i>undulata</i> (Thunb.) Fenzl	○	-
ハママツナ	ヒユ科	<i>Suaeda maritima</i> (L.) Dumort. subsp. <i>asiatica</i> H. Hara	○	絶滅危惧 類
ツルナ	ハマミズナ科	<i>Tetragonia tetragonoides</i> (Pall.) Kuntze	○	-
トキワガキ	カキノキ科	<i>Diospyros morrisiana</i> Hance	-	準絶滅危惧
ヌマトラノオ	サクラソウ科	<i>Lysimachia fortunei</i> Maxim.	○	-
クリンソウ	サクラソウ科	<i>Primula japonica</i> A. Gray	-	絶滅危惧 類
コカモメツル	キョウチクトウ科	<i>Tylophora floribunda</i> Miq.	○	-
コバノカモメツル	キョウチクトウ科	<i>Vincetoxicum sublancoelatum</i> (Miq.) Maxim. var. <i>sublancoelatum</i>	○	絶滅危惧 類
ハマヒルガオ	ヒルガオ科	<i>Calystegia soldanella</i> (L.) R. Br.	○	-
ネナシカズラ	ヒルガオ科	<i>Cuscuta japonica</i> Choisy	○	-
オオマルバノホロシ	ナス科	<i>Solanum megacarpum</i> Koidz.	○	絶滅危惧 類
アウゴケ	オオバコ科	<i>Callitriche japonica</i> Engelm. ex Hegelm.	○	-
ミズハコベ	オオバコ科	<i>Callitriche palustris</i> L.	○	-
イヌノフグリ	オオバコ科	<i>Veronica polita</i> Fr. var. <i>lilacina</i> (T. Yamaz.) T. Yamaz.	○	-
カワヂシャ	オオバコ科	<i>Veronica undulata</i> Wall.	○	準絶滅危惧
ゴマノハグサ	ゴマノハグサ科	<i>Scrophularia buergeriana</i> Miq.	○	絶滅危惧 類
アゼトウガラシ	アゼナ科	<i>Lindernia micrantha</i> D. Don	○	-
アゼナ	アゼナ科	<i>Lindernia procumbens</i> (Krock.) Borbás	○	-
キランソウ	シソ科	<i>Ajuga decumbens</i> Thunb.	○	-
コムラサキ	シソ科	<i>Callicarpa dichotoma</i> (Lour.) K. Koch	-	絶滅危惧 類
メハジキ	シソ科	<i>Leonurus japonicus</i> Houtt.	○	-
シロネ	シソ科	<i>Lycopus lucidus</i> Turcz. ex Benth.	○	-
ヒメサルダヒコ	シソ科	<i>Lycopus ramosissimus</i> (Makino) Makino var. <i>ramosissimus</i>	○	-
ヒメジソ	シソ科	<i>Mosla dianthera</i> (Buch.-Ham. ex Roxb.) Maxim.	○	-
アキノタムラソウ	シソ科	<i>Salvia japonica</i> Thunb.	○	-
ミソコウジュ	シソ科	<i>Salvia plebeia</i> R. Br.	○	準絶滅危惧
タツナミソウ	シソ科	<i>Scutellaria indica</i> L.	○	-
ナミキソウ	シソ科	<i>Scutellaria strigillosa</i> Hensl.	絶滅 (注1)	絶滅

イヌゴマ	シソ科	<i>Stachys aspera</i> Michx. var. <i>hispidula</i> (Regel) Vorosch.	○	-
ハマゴウ	シソ科	<i>Vitex rotundifolia</i> L.f.	-	絶滅危惧 類
イヌタヌキモ	タヌキモ科	<i>Utricularia australis</i> R.Br.	○	準絶滅危惧
ミゾカクシ	キキョウ科	<i>Lobelia chinensis</i> Lour.	○	-
アサザ	ミツガシワ科	<i>Nymphoides peltata</i> (S.G.Gmel.) Kuntze	-	情報不足
オトコヨモギ	キク科	<i>Artemisia japonica</i> Thunb.	○	-
センダングサ	キク科	<i>Bidens biternata</i> (Lour.) Merr. et Sherff	○	-
タウコギ	キク科	<i>Bidens tripartita</i> L.	○	-
ヤブタバコ	キク科	<i>Carpesium abrotanoides</i> L.	○	-
ヨシノアザミ	キク科	<i>Cirsium nipponicum</i> (Maxim.) Makino var. <i>yoshinoi</i> (Nakai) Kitam.	○	-
ヤクシソウ	キク科	<i>Crepidiastrum denticulatum</i> (Houtt.) J.H.Pak et Kawano	○	-
タカサブロウ	キク科	<i>Eclipta thermalis</i> Bunge	○	-
コオニタビラコ	キク科	<i>Lapsanastrum apogonoides</i> (Maxim.) J.H.Pak et K.Bremer	○	-
ヤブタビラコ	キク科	<i>Lapsanastrum humile</i> (Thunb.) J.H.Pak et K.Bremer	○	-
フキ	キク科	<i>Petasites japonicus</i> (Siebold et Zucc.) Maxim.	○	-
コウゾリナ	キク科	<i>Pieris hieracioides</i> L. subsp. <i>japonica</i> (Thunb.) Krylov	○	-
ハハコグサ	キク科	<i>Pseudognaphalium affine</i> (D.Don) Anderb.	○	-
ククアザミ	キク科	<i>Saussurea ussuriensis</i> Maxim.	-	絶滅危惧 類
カンサイタンボグ	キク科	<i>Taraxacum japonicum</i> Koidz.	○	-
ウラギク	キク科	<i>Tripolium panonicum</i> (Jacq.) Schur	○	準絶滅危惧
オナモミ	キク科	<i>Xanthium strumarium</i> L. subsp. <i>sibiricum</i> (Patin ex Widder) Greuter	絶滅 (注1)	絶滅
ハマウド	セリ科	<i>Angelica japonica</i> A.Gray	○	-
ドクゼリ	セリ科	<i>Cicuta virosa</i> L.	○	絶滅危惧 類
セリ	セリ科	<i>Oenanthe javanica</i> (Blume) DC.	○	-

：大阪市における希少性・絶滅の危険性を判断するための情報が不足している種。

注1：市内にかつて生息・生育していた記録が残っているが、最後に確認してから長い時間が経過しているため、市内ではすでに絶滅したと考えられる種。

コケ類

大阪市内では96種のコケ類が確認されています。このうち、外来種は1種、在来種は95種で、この在来種の中から、冬季の水位が下がった水田や浅いため池にみられるイチヨウウキゴケ、ハタケゴケなどの水辺のコケ4種と、樹幹着生性のオオスミヨウジョウゴケの合計5種を「保護上注目すべき生き物」として選定しました。この5種については、市内で水田が減少し、ため池などが人工護岸化されたため、生育地が減少したと考えられます。大阪市内の重要生息地としては、市内に残る貴重な水田、大阪城北側の石垣、上町台地西側の樹林帯及び湿地、大阪城公園・靉公園・長居公園などの大径木を残した公園などがあげられます。

和名	科名	学名	大阪市内の保護上注目すべき生物	(参考)大阪府レッドリスト2014
オオスミヨウジョウゴケ	クサリゴケ科	<i>Cololejeunea lanciloba</i> Steph.	○	情報不足
ウキゴケ	ウキゴケ科	<i>Riccia fluitans</i> L.	○	絶滅危惧 類
ミヤケハタケゴケ	ウキゴケ科	<i>Riccia miyakeana</i> Schiffn.	○	情報不足
ミドリハタケゴケ	ウキゴケ科	<i>Riccia sorocarpa</i> Bisch.	○	準絶滅危惧
イチヨウウキゴケ	ウキゴケ科	<i>Ricciocarpon natans</i> (L.) Conda	○	情報不足

菌類（生育情報が少ないため、「保護上注目すべき生き物」を選定せず）

菌類は、動物・植物から独立した酵母、カビ、きのこなどを含む多様な生物群ですが、生物多様性保全の上では、肉眼的な観察記録の残る大型菌類（きのこ類）に焦点が当てられます。きのこ類には、マツ科やブナ科などの樹木と共生する外生菌根菌類、木材腐朽菌、落葉分解菌など、森林に依存する種が多いので、樹林地の少ない大阪市内での調査事例は極めて少なく、長居公園や大阪城公園での調査事例に限られています。それでも、大阪市内には282種の生育が確認されており、市内の生態系の中において、動植物の分解・吸収などで重要な役割を果たしていると言

えます。大阪市内の生息情報が少ないため、明確な判断は難しいですが、かつて住吉大社周辺で広く採取されていたというショウロ（大阪府レッドリスト 2014 の絶滅危惧 II 類）などは、大阪市内では絶滅した可能性が高いと考えられます。一方、イカタケ、カゴタケなどの希少種が市街地の緑地などから見つかる可能性があると考えられます。

和名	目名	科名	学名	大阪市内の保護上重要な生物	(参考)大阪府レッドリスト 2014
ホオベニシロアシイグチ	ハラタケ目	イグチ科	<i>Tylopilus valens</i> (Corner) Hongo & Nagasawa	-	準絶滅危惧
ハツタケ	ハラタケ目	ベニタケ科	<i>Lactarius lividatus</i> Berk. & Curtis	-	準絶滅危惧
ケシボウスタケ	ケシボウスタケ目	ケシボウスタケ科	<i>Tulostoma brumale</i> Pers.	-	準絶滅危惧
スジチャダイゴケ	チャダイゴケ目	チャダイゴケ科	<i>Cyathus striatus</i> (Huds.) Willd.	-	準絶滅危惧
カゴタケ	スッポンタケ目	アカカゴタケ科	<i>Ileodictyon gracile</i> Berk.	-	絶滅危惧 類
イカタケ	スッポンタケ目	アカカゴタケ科	<i>Aserve arachnoidea</i> E. Fisch.	-	絶滅危惧 類
ショウロ	ヒメノガステル目	ショウロ科	<i>Rhizopogon roseolus</i> (Conda) Th. Fr.	-	絶滅危惧 類
クモタケ	スチルペラ目	スチルペラ科	<i>Nomuraea atypicola</i> (Yasuda) Sanson	-	情報不足

【参考】

各種調査によると、1950年頃から大阪市内で生息・生育記録がある種は合計4,504種です。
このうち、「大阪府レッドリスト2014」に掲載されている種は、絶滅は18種、絶滅危惧類は51種、絶滅危惧類は100種、準絶滅危惧は159種、情報不足は35種と、合計363種となります。

大阪市内の希少な生き物（総括表）

No.	分類群	市内で生息・生育していることが確認された種	「大阪府レッドリスト2014」掲載種				
			絶滅	絶滅危惧類	絶滅危惧類	準絶滅危惧	情報不足
1	ほ乳類	16	0	1	1	1	0
2	鳥類	324	0	6	26	44	2
3	爬虫類	11	0	0	1	1	0
4	両生類	7	0	1	1	2	0
5	汽水・淡水魚類	122	0	12	6	8	4
6	昆虫類	1,768	4	11	20	38	4
7	クモ類	100	0	0	0	1	0
8	陸産貝類	27	0	0	0	1	0
9	淡水産貝類	22	1	1	6	2	0
10	海岸生物（無脊椎動物及び藻類）	231	2	2	12	27	16
11	その他淡水産無脊椎動物	10	0	0	0	0	0
12	維管束植物	1,488	11	17	23	29	5
13	コケ植物	96	0	0	1	1	3
14	菌類	282	0	0	3	4	1
	合計	4,504	18	51	100	159	35

(2) 特定外来生物

大阪市内で生息・生育が確認されている生き物のうち、特定外来生物に指定されているものは、ほ乳類3種、鳥類1種、両生類1種、魚類3種、昆虫類3種、クモ類2種、維管束植物8種の合計21種となります。

分類群	和名	科名	学名
ほ乳類	アライグマ	アライグマ科	<i>Procyon lotor</i>
ほ乳類	台湾リス	リス科	<i>Callosciurus erythraeus</i>
ほ乳類	ヌートリア	ヌートリア科	<i>Myocastor coypus</i>
鳥類	ソウシチョウ	チメドリ科	<i>Leiothrix lutea</i>
両生類	ウシガエル	アカガエル科	<i>Lithobates catesbeianus</i>
魚類	カダヤシ	カダヤシ科	<i>Gambusia affinis</i>
魚類	ブルーギル	サンフィッシュ科	<i>Lepomis macrochirus macrochirus</i>
魚類	オオクチバス	サンフィッシュ科	<i>Micropterus salmoides</i>
昆虫類	アルゼンチンアリ	アリ科	<i>Linepithema humile</i>
昆虫類	アカカミアリ	アリ科	<i>Solenopsis geminata</i>
昆虫類	ヒアリ	アリ科	<i>Solenopsis invicta</i>
クモ類	ハイイロゴケグモ	ヒメグモ科	<i>Latrodectus geometricus</i>
クモ類	セアカゴケグモ	ヒメグモ科	<i>Latrodectus hasselti</i>
維管束植物	ボタンウキクサ	サトイモ科	<i>Pistia stratiotes</i> L.
維管束植物	オオフサモ	アリノトウグサ科	<i>Myriophyllum aquaticum</i> (Vell.) Veldc.
維管束植物	アレチウリ	ウリ科	<i>Sicyos angulatus</i> L.
維管束植物	ナガエツルノゲイトウ	ヒユ科	<i>Alternanthera philoxeroides</i> (Mart.) Griseb.
維管束植物	オオカワヂシャ	オオバコ科	<i>Veronica anagallis-aquatica</i> L.
維管束植物	オオキンケイギク	キク科	<i>Coreopsis lanceolata</i> L.
維管束植物	ミズヒマワリ	キク科	<i>Gymnocoronis spilanthoides</i> (D.Don ex Hook. et Arn.) DC.
維管束植物	ナルトサワギク	キク科	<i>Senecio madagascariensis</i> Poir.

5 . 大阪市内の生物多様性関連施設等 一覧

施設等	掲載頁	所在地	連絡先
自然史博物館	30		
環境科学研究センター	30		
天王寺動物園	30		
長居植物園	30		
咲くやこの花館	30		
海遊館	30		
野鳥園臨港緑地 (もと南港野鳥園)	31		
自然体験観察園 (花博記念公園鶴見緑地内)	31		
大阪城公園	31		
住吉大社	31		
新梅田シティ 新・里山	31		
なんばパークス	31		
実験集合住宅「NEXT21」	32		
ハグミュージアム	32		
新ダイビル 堂島の杜	32		
加賀屋新田会所跡・加賀屋緑地	32		

施設管理者の了承を得た上で掲載

6 . 用語集 (5 0 音順)

あ行

愛知目標 (はじめに, P1,2,3)

コラム 1 参照 (p.3)

維管束植物 (p.24)

維管束と呼ばれる通常組織を有する植物の総称。具体的には、シダ植物および種子植物 (裸子植物、被子植物) をいい、菌類、藻類、コケ類などと区別される。

遺伝子組換え生物 (p.56)

遺伝子組換え技術 (組換え DNA 技術) によって得られた生物のこと。遺伝子組換え技術とは、ある生物の遺伝子 (DNA) を人為的に、他の生物の染色体などに導入する技術。この技術により、その生き物に新しい能力や性質を持たせたり、ある機能をなくしたりさせることができることから、食品生産を量的・質的に向上させるだけでなく、加工特性などの品質向上に利用されることが期待されている。

遺伝資源へのアクセスと利益配分 (ABS) (p.1, 56)

コラム 21 参照 (p. 56)

おおさか環境科 (p.41)

地球温暖化、生物多様性、ごみ減量、都市環境保全など、持続可能な社会づくりに向けた環境教育の充実に向け、小中学校の授業の中で使用するために大阪市が作成している副読本。

おおさか環境ネットワーク (p.42)

各主体間の連携と協働のもとで、環境問題解決に向けた行動を実践するための取り組みを進めるため、大阪市環境局が立ち上げたネットワーク。

大阪市エコボランティア (p.39)

地域における環境保全活動を推進し、大阪市が開催する事業 (環境学習に関する講座及びイベント、自然体験観察園に関する事業、こどもエコクラブ事業、環境学習ネットワーク強化に関する取組みなど) に対し、ボランティアとして運営の補助や技術的支援などを行う役割を担っていただく方を募集している。

大阪市環境基本計画 (p.2)

1995 (平成 7) 年 4 月に施行した「大阪市環境基本条例」は、その理念として「現在及び将来の市民が安全で健康かつ快適な生活を営むことができる良好な都市の環境を確保すること」を定めており、この理念を実現するため、条例第 8 条に基づき「環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、環境の保全及び創造に関する基本的な計画」として定めるもの。

大阪自然史フェスティバル (p.42)

大阪周辺の自然に関わるさまざまな団体が集まり、大阪の自然のおもしろさ、活動の楽しさを伝える場として、「自然派市民の文化祭」をテーマに 2003 年に初めて開催した。その後、自然史博物館などとの共催によ

り、現在に至るまで毎年テーマの異なるフェスティバルを開催している。近年では、企業の協賛・協力を得て、NPO が主催する同種イベントとしては国内最大級のフェスティバルに成長している。

大阪市地球温暖化対策実行計画〔区域施策編〕(p.1,63)

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、本市が市域の自然社会的条件に応じて温室効果ガスの排出の抑制等を進めるために策定した計画。

大阪市地球温暖化対策実行計画〔事務事業編〕(p.64)

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、国の「地球温暖化対策計画」に即して、本市が本市の事務事業に関して、温室効果ガスの排出の抑制などを行うために策定した計画。

大阪市地球温暖化対策推進本部 (p.68,70)

市域における市民や事業者などの活動及び本市の事務事業に伴って排出する温室効果ガスの意欲的な削減並びに気候変動の影響への対処に向けて、全庁的に地球温暖化対策を総合的かつ強力に推進するために設置された組織。この推進本部のもとに、本市地球温暖化対策の推進に関する課題の調査及び検討を行うため、区域施策編推進プロジェクトチーム及び事務事業編推進プロジェクトチームが設置された。さらに、両プロジェクトチームのもとに、生物多様性保全及びエコカー普及の検討のため、生物多様性保全推進ワーキンググループとエコカー普及促進ワーキンググループが設置された。

おおさか生物多様性施設連絡会 (p.42)

平成 28 年度に大阪府内の博物館や水族館等の施設連携のもと、民官あげて生物多様性の普及啓発及びその実践活動を促進することを目的として設立した連絡会。

大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアム (大阪HITEC)(p.60)

民間企業、大学、大阪府、大阪市、環境 NPO などの各機関から構成されるコンソーシアム(共通の目的に取り組む産学官民の連合体)として、「産学官民によるパートナーシップの構築」、「知見の収集と整理」、「技術開発」、「普及啓発」などを通じ、ヒートアイランド現象緩和への貢献を目指した活動を行っている。

おおさかヒートアイランド対策推進計画 (p.60)

大阪府・大阪市がともに、「大阪府市ヒートアイランド対策基本指針」をベースに、国のヒートアイランド対策大綱などを踏まえ、ヒートアイランド対策の基本的な考え方や目標、取組内容を定めた計画。

大阪府レッドリスト 2014 (p.24,26,44)

レッドリストとは、絶滅のおそれのある野生動植物等について、絶滅への危険度に応じてランク付けしたもので、「大阪府レッドリスト 2014」は、大阪府が、府内に生息・生育する保護上重要な野生動植物の現状を府民の方々に知っていただき、豊かな自然環境の保全や野生動植物保護のための資料として、平成 12 年(2000 年)にとりまとめたもの。

大阪 水・環境ソリューション機構 (OWESA)(p.67)

大阪市・府と大阪・関西の経済界が一体的に活動するための組織。行政が持つこれまでの豊富な経験と、民間が持つ先進的な技術を活かして、多様な水・環境問題の解決をめざす。

大阪湾再生行動計画 (p.53)

京阪神都市圏を含む広い範囲の集水域を抱え、その一方で閉鎖性海域であり、水環境改善に向けた課題が多く残された大阪湾において、都市再生プロジェクトである「海の再生」を推進するため、関係省庁及び関係地方公共団体等が大阪湾の水環境の改善等を通じた「海と都市のかかわり」に重点を置く総合的な「海の再生」のための取組みをまとめたもの。

大阪湾見守りネット (p.42)

2005(平成17)年2月26日に開催した「ほっといたらあかんやん!大阪湾フォーラム」に集まったメンバーを中心に、大阪湾に関心のある個人や団体が構成されるゆるやかなネットワークで、2005(平成17)年11月12日に設立。大阪湾という広域で、大阪湾再生をミッションとし、かつ大阪湾に関わる官民を問わない個人や団体をメンバーとする、より公益性の高いネットワークである。

か行

海退 (p.17)

大陸の内部に侵入していた海が、陸地の緩慢な隆起あるいは海面の下降によって後退する現象。

外来生物 (p.23,36,46,47)

外来生物法においては、「海外から国内に導入されることにより、その本来の生息・生育地の外に存在する生物」と定義されている法律用語。つまり、国外から日本に導入されるもののみを対象としており、いわゆる国内由来の外来種は含まない。

環境活動推進施設(愛称「なにわECOスクエア」)(p.41, 68, 69)

花博記念公園鶴見緑地にある、大阪市が環境学習講座をはじめとした各種事業を実施している施設。

緩傾斜護岸 (p.53)

護岸・堤防の幅を拡げ、勾配を緩やかにすることにより、耐震性を高めるとともに、身近な水辺空間を実現して親水性を向上させた護岸。また、海中部では海藻を生育させやすく多様な生態系を創出できる。

企業の森 (p.33)

企業・団体にCSR(企業の社会的責任)活動の一環として森林づくりに参加してもらう制度。

気候変動に関する国際連合枠組条約(気候変動枠組条約)(p.1)

1992年にブラジルのリオデジャネイロで開催された国連環境開発会議(地球サミット)において、大気中の温室効果ガスの濃度を気候体系に危害を及ぼさない水準で安定化させることを目的として採択された条約。

気候変動への影響への適応計画 (p.1)

2015(平成27)年2月に中央環境審議会から環境大臣に、「日本における気候変動による影響の評価に関する報告と今後の課題について」意見具申がなされ、その意見具申を踏まえ、気候変動による様々な影響に対し、政府全体として、全体で整合のとれた取組を総合的かつ計画的に推進するため、政府が2015年11月に策定した「気候変動の影響への適応計画」のこと。

汽水域（はじめに,p.21,23,44）

淡水と海水が混在している、河川・湖沼および沿海などの水域。

グリーンインフラストラクチャー（グリーンインフラ）（P42, 43）

コラム 17 参照（p.57）

グリーン購入（p.59）

製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入すること。

国際自然保護連合（IUCN）（p.66）

International Union for Conservation of Nature の略。1948年に世界的な協力関係のもと設立された、国家、政府機関、非政府機関で構成される国際的な自然保護に関する世界最大のネットワークでもある。

国際花と緑の博覧会（p.30,66）

鶴見緑地において、1990年に「自然と人間との共生」をテーマに開催された博覧会で、大阪はもとより多くの地域で花と緑による多様な緑化へと展開していく契機となった。

国連環境開発会議（地球サミット）（p.1）

1972年の国連人間環境会議（ストックホルム会議）以来、環境問題への取り組みが本格化する中、1992年にブラジルのリオデジャネイロで開催された環境と開発に関する国連会議であり、地球温暖化、酸性雨等顕在化する地球環境問題を人類共通の課題と位置付け、「持続可能な開発」という理念の下に環境と開発の両立を目指して開催された。

国連持続可能な開発会議（リオ+20）（p.1）

ブラジル政府が、1992年の「国連環境開発会議（地球サミット）」から20周年を迎える機会に、同会議のフォローアップ会合を行うことを提案したことを受け、2009年の第64回国連総会で開催が決定されたもので、2012年にブラジルのリオデジャネイロで開催され、持続可能な開発目標（SDGs）を制定することが確認された。

こどもエコクラブ事業（p.39）

子どもたちが人と環境の関わりについて幅広い理解を深め、自然を大切に思う心や、環境問題解決に自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の環を広げることを目的として、子どもたちが地域の中で主体的に行う継続的な環境保全活動や環境学習を支援する事業。

さ行

里地里山（p.13）

人間の働きかけを通じて環境が形成されてきた地域で、二次林、農地、ため池、草原などで構成される、多様な生物の生息・生育空間のこと。人間の生活・生産活動の場であり、生活文化が育まれ、多様な価値や権利関係が錯綜する多義的な空間でもある。

COD (p.61)

Chemical Oxygen Demand (化学的酸素要求量) の略。水中の有機物などが過マンガン酸カリウムなどの酸化剤によって酸化されるときに消費される酸素の量で、水質汚濁を測る代表的な指標です。この数値が大きいほど水中の汚濁物質の量が多いことを示している。

持続可能な開発目標 (SDGs) (p.1,2,4,37)

コラム 2 参照 (p.4)

食品ロス (p.29,54,58)

食べられるのに捨てられてしまう食品。食品ロスを削減して、食品廃棄物の発生を減らしていくことが重要。

植物園協会 (p.45)

正式名称は公益社団法人 日本植物園協会で、全国の植物園で構成された団体。全国的な植物園ネットワークを通じて、植物園や植物に関する文化の発展と科学技術の振興、自然環境の保全に貢献する事業を実施し、人類と自然が共生する豊かで持続的な社会の実現に寄与することを目的として活動している。

水源かん養機能 (p.23)

森林の土壌が降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能。雨水が森林土壌を通過することにより、水質が浄化される。

生産緑地法 (p.49)

市街化区域内にある農地の緑化を活かし、計画的、永続的に保全することによって、公害や災害の防止に役立てるとともに、豊かな都市環境を形成しようとする、都市計画上の制度。

生態系 (はじめに,p.1,3,5,6,7,11,12,14,17,33,37,45,47,52,53,65,101,105)

ある地域に生息している多種類の生物全体と、それらの生物の基盤となっている土壌や水、気象や海域などの物理的・化学的な環境を一つのシステムとしてとらえたもので、エコシステムともいう。

生態系ネットワーク (エコロジカルネットワーク) (p.37,45,48,52,53)

保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域を核として、生息・生育空間のつながりや適切な配置を考慮したうえで、これらを有機的につないだネットワークのこと。ネットワークの形成により野生生物の生息・生育空間の確保の他、人と自然とのふれあいの場の提供や地球温暖化対策等、多面的な機能が発揮されることが期待される。

生物多様性基本法 (p.1)

生物多様性の保全と持続可能な利用に関する施策を総合的・計画的に推進することで、豊かな生物多様性を保全し、その恵みを将来にわたり享受できる自然と共生する社会を実現することを目的としており、わが国の生物多様性施策を進めるうえでの基本的な考え方を示した法律。

生物多様性国家戦略 (p.1,2,12)

生物多様性条約及び生物多様性基本法に基づく、生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する国の基本的な計画。わが国は、平成7年に最初の生物多様性国家戦略を策定し、これまでに4度の見直しを実施。

生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）（はじめに、p.1,3,56）

2010年10月に愛知県名古屋市で、「いのちの共生を、未来へ（Life in Harmony, into the Future）」をスローガンに開催された。愛知目標や遺伝資源へのアクセスと利益配分（ABS）に関する名古屋議定書が採択された。

生物の多様性に関する条約（生物多様性条約）（p.1）

2010年10月に愛知県名古屋市で開催されたCOP10で採択された条約で、生物多様性を包括的に保全するとともに、生物資源を持続可能な形で利用していくための国際的な枠組みを設定した条約。

た行

地球温暖化（p.1,5,15,17,36,41,60,63,65,66,86）

人間の活動が活発になるにつれて「温室効果ガス」が大気中に大量に放出され、地球全体の平均気温が急激に上がり始めている現象。

Team OSAKA ネットワーク（p.65）

コラム25 参照（p.65）

沖積平野（p.20）

河川の堆積作用で形成される平野。

適応策（p.1,60）

地球温暖化対策における適応策とは、気候変動の影響による被害を最小化あるいは回避し、迅速に回復できる、安全・安心で持続可能な社会を構築するための施策のこと。

動物園水族館協会（p.45,66）

正式名称は公益社団法人 日本動物園水族館協会。国際的な視野に立って、自然や貴重な動物を保護するために設立された、国内の151もの動物園や水族館の集まり。日本全体の視野に立って、一つひとつの動物園や水族館では実施できないことを協力して行っている。

な行

なにわ伝統野菜（p.54,55）

コラム参 19 参照（p.55）

二国間クレジット制度（JCM）（p.65）

コラム25 参照（p.65）

二次林（p.20）

自然林が伐採された後または焼失した後に自然に生えてきた樹林のことで、自然林と二次林を総称して天然

林と呼ぶこともある。

は行

バイオマス (p.63)

生物資源 (bio) の量 (mass) を表す概念で、再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたものをいう。バイオマスを燃焼させた際に放出される二酸化炭素は、化石資源を燃焼させて出る二酸化炭素と異なり生物の成長過程で光合成により大気中から吸収した二酸化炭素であるため、バイオマスは、大気中で新たに二酸化炭素を増加させない「カーボンニュートラル」な資源といわれている。

パリ協定 (p.1)

2015年12月にパリで開催された気候変動枠組条約第21回締約国会議にて、2020年以降の温暖化対策の国際枠組みとして採択されたもので、歴史上初めて、全ての国が地球温暖化の原因となる温室効果ガスの削減に取り組むことを約束した枠組み。

ビオトープ (p.33,34,51)

bio (命) と topos (場所) というギリシャ語からの造語で、生き物が生息する空間を意味するもの。

ヒートアイランド現象 (p.17,36,60)

都市部でのエネルギー消費に伴う排熱の増加や緑地の減少、高層ビルなどによる通風の阻害、道路がアスファルトやコンクリートで固められているために、地表面からの水分蒸発が少なくなること等によって起こる、都市部の気温が郊外と比較して高くなる現象をいう。都市部では気温の上昇により冷房需要が増え、その排熱でますます気温が高くなる悪循環が起きる。

BOD (p.61)

Biochemical Oxygen Demand (生物化学的酸素要求量) の略。水中の有機物などが微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量で、水質汚濁を測る代表的な指標。この数値が大きいほど水中の汚濁物質の量が多いことを示している。

富栄養化 (p.9)

元々は湖沼が長い年月の間に流域からの栄養塩類の供給を受けて生物生産の高い富栄養湖に移り変わっていく現象を指していたが、近年、人口、産業の集中等により、湖沼に加えて東京湾、伊勢湾、瀬戸内海等の閉鎖性海域においても、窒素、リン等の栄養塩類の流入により、藻類等が増殖繁茂することに伴い、その水質が悪化することをさす。

保全配慮地区 (p.45)

都市緑地法第4条第2項に基づき定められた「緑地保全地域及び特別緑地保全地区以外の区域であって重点的に緑地の保全に配慮を加えるべき地区」。

や行

野生生物種 (p.1)

家畜やペットなどを除いて、自然に生息する動植物のこと。

淀川ワンド群（はじめに, p.16, 20,26,44,94,95,100）

淀川の本流に沿って並ぶ池のような水域のことで、重要な水生生物の生息地となっている。かつては淀川全域に 500 を超えるワンドが存在していたが、1970 年代の河川改修により、そのほとんどが消失した。現在、いくつかのワンド群が残存している。

ら行

緑化重点地区（p.48）

都市緑地法第 4 条第 2 項の中で、緑の基本計画に定めることができるとされている「重点的に緑化の推進に配慮を加えるべき地区」。